リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷　恵美子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	8

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業計画や授業内容に関して、「学生の主体的な学びを重視した授業」となるように配慮して立案をした。 そのため、講義中心の授業においても、スピーチ練習をほぼ毎回実施したり、学生の調査活動を少し取り入れて意見を発表させたり討議させたりの時間を設けたりした。現場の栄養教諭の実践発表の授業においても、意見交換の時間を設定した。演習中心の授業においては、プレゼンテーションや模擬授業を多く取り入れて、栄養教諭としての実践にすぐ役立つ実務を習得させるように努めた。特に、児童への発問・対応から板書計画まで、細やかな指導技術は対象学年に合わせて、具体的に練習させた。 希望する学生に対しては、教育実習の査定授業に向けての個人指導を実施した。個人指導は、各学生の希望に合わせて対面指導またはオンライン指導とした。実施する期日や時刻も、各学生の希望に合わせて複数回行った。 教育実習終了後は、反省事項とその改善策を具体的に考えさせて、今後の実践にすぐ活かせることを目指した。 なお、殆どの学生が「栄養教諭の資格を取得して、栄養教諭になりたい」という強い希望を持って本科目を受講しているため、学校現場や栄養教諭の最新の情報を伝える時間を随時設けた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	レポートや発言、スピーチ、プレゼンテーション、模擬授業など、多様な視点から評価を実施した。 これらは、独自に設けた5段階評価規準を活用したが、平均4.1点であった。 最低点の学生でも平均点は3.8点であり、最高点は4.8点であった。学生自身へのアンケート結果においても、到達度自己評価は、平均4.7点または4.6点という高評価である。 一方、教育実習先において多くの学生が、子どもへの対応や授業指導スキルがかなり高いと好評を得た。 これらの結果から、目標は達成されたと考える。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容的妥当性→本科目は、教職についての基礎的な科目から、実践的な科目へと段階が上がっていく要となる科目である。学生は、良い成績であり、内容的に妥当であると考える。 ②DPからのみての内容的妥当性→学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生達は、教育実習後の感想として「教育実習がうまくいって、楽しかった」「ますます、栄養教諭になりたくなった」「たくさん準備することが必要だと、分かった」などと記述していた。そして、パワーポイント原稿をきちんと自作して、3年生の前で分かりやすく実習報告ができた。 実習先学校からは、殆どの学生が教育実習生として学習指導のレベルが高いと好評であった。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況は高いと、総括的に判断する。次年度は、学生のICT技術力やコミュニケーション力の更なる向上を目指すことが望ましいと考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷　恵美子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（栄養教諭）	4	後期	選択	はい	8

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	栄養教諭免許取得を目指すコースと養護教諭免許取得を目指すコース、英語教諭免許取得を目指すコースという３つのコースが合同で実施する授業と、各コースが独自で実施する授業を組み合わせた科目である。3つのコースが合同で行う授業は、講義が中心である。３つのコースが合同で実施する講話の場合には、必ず1週間以内にレポートの提出を求めた。 栄養学科が独自で授業を実施する場合は、学生の活動を中心に授業展開した。 授業のめあてを決定した後は、学生同士が協議しながら授業を展開していった。指導者は励ましや助言を適時与えて、授業が適切に展開するように図った。 また、これからの教員はICT教育の実践を求められるので、実際に栄養教諭になった時を想定して、意見発表や結果発表などは全てパワーポイントでの発表とさせた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	レポートや発言内容、プレゼンテーション、協議でのリーダー性や協調性などの視点から、評定した。独自の5段階評価規準を活用したが、平均は4.2点と高得点であった。最低点の学生でも3.4点で、最高点の学生は4.8点であった。 一方、学生自身による「到達度自己評価」は、各項目の平均が全て４点以上あった。「授業の質評価」でも、各項目の平均が全て4.3点と、高い評価である。また、本科目の最後の授業では、「こんな教師になりたい」という願いを強く表現したポスターを全員が描いていた。 これらの結果から、目標は達成できたと考える。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 → 本科目は、教職課程におけるまとめの科目である。学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考える。 ②DPからみての内容的妥当性 → 学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	まとめのレポートや感想の中で、学生達は「自分達で話し合いながら進めていったので、自信になった」「パソコン操作が上手になったので、これからもどんどんプレゼンをしたい」「栄養教諭に、いつかなりたい」などの感想を述べていた。 栄養教諭にならない学生も、病院の管理栄養士として患者さんに指導する時に役立ちそうとか、パソコンスキルをさらに高めて会社でのキャリアアップをしたいとかの、前向きな感想を述べていた。いずれにしても、どの学生も、教職コースで栄養教諭免許を取得できたことは良かったとのことであった。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の到達状況は良いと、総括的に判断する。 次年度は、学生達に「パソコンスキル」と共に「言葉での表現力」の育成も望まれる。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保田　理

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	64

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①１年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるあるため、聖書を読むこと、祈祷をすることの実践を毎回の授業で行うことで、youtubeチャペルの視聴意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は８４点であり、再試対象は０名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点ではyoutubeチャペルを視聴しレポートを実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「０回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったが、授業の内容で理解できたとする解答も多く、課題を出す等で対応することも考えられる。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったが、この点も課題を出す等で考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、youtube チャペルの視聴と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	東　彩子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と文化	2	後期	選択	はい	7

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、キリスト教学で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史について概観した後、聖書を土台とした芸術作品の鑑賞、キリスト教音楽や文学作品を味わうことによって、キリスト教を土台とした文化について視野を広げることができた。最後には、学生自らがキリスト教文化に関するテーマを自由に設定し、各々の興味関心についてレポートを書くことができた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関して、また到達度自己評価の平均値はいずれも4ポイント以上であった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は95%以上であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、キリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。 １．著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。 ２．キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。 ３．チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は キリスト教学を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教学の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表を行い教養を養うことができる、という行動目標については、今年度は遠隔授業であったため個人でのレポート執筆を行った。対面授業に戻り次第、学生による調査・発表を再開したい。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価の平均が4ポイント以上であったが、対面授業に戻り次第、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが主体的に意見交換ができるような進め方を工夫したい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義としては質評価の結果に表れているように妥当であったと言えるが、今年度は遠隔授業となったため学生のグループ発表をすることができなかった。対面授業が戻り次第、学科横断科目の性質を生かし、受講生との多角的な意見交換ができるような方法を工夫したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田　郁子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	いいえ	60

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探求していく姿勢をもたなければならない。本セミナーは、初年次セミナーＩおよびＩＩで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。 初年次セミナーＩＩでは、『初年次セミナーＩ』の学びを基礎として、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズ『発表する』『討論する』を強化し、より一層、主体的かつ能動的学習を展開する。基本的スキル（聞く・調べる・読む・書く・考える）の強化ならびに定着を図り、さらに、プレゼンテーションに発展させる。また、グループ内での討論を通して、物事を多面的・多角的に捉えて思考する力を身につけ、それらの考えを相手に分かりやすく伝える力を身につける。

4．学生の目標達成状況について

（１）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された

（２）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は81.4(±7.2)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。 理想的レベル(80点以上)は38名(63%程度)、標準的レベル(70点以上)は59名(98%程度)であり、標準的レベル以上を達成できた考える。 （1名は進路変更のため退学） 「自己達成度」は平均値が全項目で3.9～4.3の間(中央値4～5)にあり、「授業の質の評価」も4.1～4.4であった。 ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは58%(32名/55名)が何もしていなかった。 シラバスの情報を参考にしたもの55%（30名/55名）であった。 本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。さらには、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	① CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ② DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性は問題ないと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、平均値が4.0～4.4であったことから、授業の進め方は良好と考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ33%（18名/55名)、35%（19名/55名）いた。また授業課題以外の学習に取り組 んでいなかった学生も58%(32名/55名)と非常に多かった。 授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由は、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。学習への動機付けが重要と考える

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間つくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義では得られない「学生と学科教育」に重要な時間を当てることができたと考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	41

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講者は、学期の始講と最終講にて体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握と実体験できるようにした。 実技中は全員準備されたカロリーカウンターを装着し、実技中の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーの関係を体感しできるだけ把握できるようにした。また、始業から３回の講義では、「筋力トレーニングの方法と機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外や放課後に自ら運動処方ができるようにした。 授業中は装着したカロリーカウンターを基に、自己の運動量の把握をした上で目標運動量を見出し、運動意欲を喚起した。その毎時間記録と評価は、学期末でまとめ、実習期間全体の取り組みを自己評価し、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係を体感し理解できることを目標とした。 生涯スポーツでは、生涯には渡る運動習慣や運動的趣味の獲得を考慮し、地域等で行われているスポーツのチーム戦を想定した種目を取り上げた。また、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを意図的に行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションを図れる様にした。ゲームではチームミーティングを頻繁に行わせ、戦略立案や実行とチームの中での個人の行動法を実行し、より積極的で実践的スポーツができることを心がけた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82±10.0点で，再試対象は1名であった。 ほぼ全員が標準的レベルに達したが，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは27名/41名（66%）であった。 目標達成できたと答えた総数は29人中28名で高値を示した。 「自己達成度」は平均値が全項目で3.8～4.3の間(中央値4.0)にあり、「授業の質の評価」も3.8～54.1であった。「コミュニケーション力・表現力の獲得」は3名（31%）が不足を感じており、コロナ禍の影響と思われるが思ったより多くない。 予習、復習の課題が少なく、授業以外での取り組みは16人(29名中)とやや積極性がなかった。 シラバスの情報を参考にした者5名/13名と低くかった。。 欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが，自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから，内容的には妥当な内容であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は60名（60人中）が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容であったと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において，予習を全くしなかった者が20名（29名中)であった。 毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことで関心が高まっていれば幸いである。 シラバスを参考にしなかった者が8名（13名中）、授業計画を立てなかった者が8名であた。 オリエンテーションにて十分な説明をしたせいなのかシラバスの利用者は13名と少ない。 次年度に向けて，思考判断の行動目標をより具体的に示した上で，小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富　史枝

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	28

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。試験の結果からみると、得点分布は上位にやや傾きがあり、ポイントはおおむね理解していることが確認された。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インタネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いのが課題であるが、今回はオンラインだったので、ネット上で質問を投げかけ、双方向的なやり取りを確保した。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の歴史を学ぶことを通して国際的なジェンダー平等についても知識を広げたうえで、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	戸田 由美

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	16

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	現代社会においてなぜ文学を学ばなければならないか、まずそこから学生に解かねばならない。その理由と目的を理解させることから始め、「文学は実学である」ことに中心軸を置き、学生自身の生活、選んだ専門分野を重ねて鑑みることによって、日常触れている表現、歴史、心、時代性、古典等々すべてが繋がって行くものであり生きてゆくうえで自身のアイデンティティと切り離せないものであることを理解させるべく導いた。そういったことをベースにして文学の諸問題の実例を掲げながら考察する際、私たちがドラマや映画を見て感動することは、即ち、自分自身の人生を客観的に眺めていることと「文学」が同じであることを教授した。ここまでが第一の重要点である。そして次にいよいよ文学作品の消化である。感じた内容には正解はないが、なぜそのように感じたか、が最も重要であり、そこに時代性を重ねて鑑みることによって、古典を学ぶことが出来る。また愛情表現においても国によってあるいは時代によって千差万別である。太陽の色然り。…そういったことをどう理解し、どう考察するのか。だから文学は実学であるというのである。そうして初めて「解釈」へと展開してゆくのである。私の講義においては少なくとも学生はここまでは理解している。またこの度、前述していることをさらに深めるために「文学と性教育」という新しいテーマを掲げ、「性」とは「こころざしを持って生きることであり、本来の性教育（欧米）が目指したものは広範囲な人間教育（全人教育）が中心である」ことが大変重要であるので、若い世代が新たな価値観を形成してゆく一助が性教育の本来の目的であるという説明を行った。この様に正しく理解して初めて正しい表現が出来ることを教示したが、一部の学生に伝わらない部分があったようでで、今後は説明を分かりやすく改善しようと思う。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生からの講義後感想文には、講義の回を重ねるごとに学びの自覚と意欲が見受けられ、文学が実学であることを理解し、生きがいを見出すべく努力しようとする学生の心が垣間見えてうれしく思った。数字に表すならば８０％である。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容妥当性については、良かったようである。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	リモート講義ではあったが学生たちの集中は途切れることなく反応はかなり良かったようである。コロナのために当初の計画通りには進めない点もあったが、今後はこういったことをも配慮して創意工夫した講義展開を心がけたいと思う。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、かなり良かったようである。８０％である。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	23

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	回答者数は16名（回答率69.6%）であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」50.0%、「資格取得に必要である」43.8%、「関心のある内容である」18.8%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	今年度は第1回を除いて対面で授業で行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける可能性を考慮して、昨年度に引き続き、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は75.04点であった。再試対象者は0名、理想的レベル（90点以上）に達した者は1名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.3、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.1、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.0であった。他の項目の平均値も3.9-3.4の間にあった。昨年度とほぼ同様の数値を示している。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が4.4、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がともに4.3、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.0であった。昨年度とほぼ同様の数値を示している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は11名、復習を全くしなかった学生は10名であり、履修者の半数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性と具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外に学習していない理由として「忙しかった」、「取り組み方がわからなかった」、「授業内で理解できたから」などの記述が見られた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「講義資料を見直したり、確認テストを見直した」、「授業の中で、分からなかった箇所や語句は必ず調べておくようにした」、「選挙へ行ったり、普段見なかった政治番組を見るように心がけている」などの記述がみられた。学生からは、「ありがとうございました」とのコメントのほかは、特に意見はなかった。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	桐原　隆弘

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	17

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	テキストの内容を理解するために、テキスト準拠の書き込み式資料を配信した。 テキストを読んで空欄に書き込み、授業で解説を受けることで理解を深めることができる。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	今年度は試験ではなく毎回の小レポートと期末レポートで成績評価を行った。 小レポートではできるだけ身近な課題（たとえば人格の尊厳と労働環境、討議倫理と合意形成）に哲学思想を結びつけるよう工夫した。明敏な問題意識を感じさせる答案も複数あり、次回授業の最初に答案例をくわしく紹介し、前回内容の理解を深めるよう工夫した。 期末レポートは講義内容全体をふまえて、各自テキスト、配布資料等を読み直し、一定量の小論文を書かせた。全体に期末レポートの出来栄えはよかったように思う。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	哲学思想を日常のさまざまな課題と結び付けて解説することを心掛けており、内容はおおむね妥当であったと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	書き込み式資料をプリントアウトしていない場合に「何をしていいかわからない」ということになった可能性がある（複数コメントあり）。今年度はすべてオンライン授業であったため、授業への取り組み方についてクラスルーム等で指示すべきであったと思われる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ただテキストの内容を理解するにとどまらず、哲学思想を日常生活のさまざまな課題に適用することを極力心がけた。コロナやウクライナ紛争など、世界観や価値観を動揺させる事態が続いている。哲学に何ができるか。微力ながら学生の助力ができるよう、時事問題も適宜取り入れながら工夫したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	金　光子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	10

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が8割以上を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては十分な内容の課題を出せるようになった。しかしながら到達度自己評価の多くの項目における3-4の数値は課題到達度と内容理解度に差異が認められる可能性がある。よって教育目標はやや到達したと考えている。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考えられるため、「社会人としての基礎的な教養を身につけている」としたＤＰ1-1に沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。授業の進め方については学生からの意見を取り入れながら授業の作成に臨んだが、内容理解度の違いに対するフォローをより十分にする必要があると考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける一助になれたのではないかと考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	24

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は24名、受講動機は「関心のある内容である」が78.3%、次いで「単位数を確保する」が56.5%であった。 授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気付きや思考する機会があるように教材を工夫したことである。 具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびリーフレットを作成する演習を行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。4または５と評価した学生が、1または２と評価した学生より多くなっている。 1＆２ 4＆５☒ 4% 83% (1) 自分なりの目標を達成した 4% 87% (2) 知識を確認したり、新たな知識を得ることができた 4% 70% (3) 事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた 4% 78% (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 4% 78% (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 4% 61% (8) コミュニケーションカ表や現力を高めることができた 成績の評価は、A評価は16.7%、B評価41.7%、C評価16.7%、Ｄ評価16.7%、Ｅ評価4.2%であった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。 1年次前期の情報処理演習基礎では、学生生活に必要な内容（学生としての自分と学び）を重点にし、後期の本情報処理演習では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。 前述の学生の目標達成状況と、以下の行動目標の自己評価の結果より、DP、CP、カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。 シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、「出来る&何とかできる」と回答した割合は以下の通りである。 (1) 100%☒社会および家庭での情報活用について紹介できる (2) 100%☒インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる (3) 91%☒分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる (4) 95%☒公開されている統計資料を適切に読み解くことが出来る

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	履修生24名で適正サイズであり、かつ、今年度は前期・後期共に対面であったことから、個々の学生の状況を把握し、指導することができた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は良好だと考えている。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	塚本　美紀

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	52

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、３年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	ほとんどの学生の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では２つの項目についてそれぞれ1名の学生が「少しそうでないと思う」と回答しているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、３年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容tなっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることからも、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみての内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という項目について1名の学生が「少しそうでないと思う」、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、１名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。遠隔授業の形態での実施で、２５０名を超える受講生であったため、学生が発言することもできず、チャットで意見のやり取りを行うこともできず、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができなかったので、対応に苦慮した。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。学生の反応が見えないので、ほぼ毎回小テストを行なって、授業内容が学生に伝わっているかどうか確認しながら実施した。また、テスト、レポート、提出物などの評価基準を明確にするため、文書にしてGoogleクラスルームに提示しておいた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田　志麻

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	31

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、前年度までは九州歯科大学・西日本工業大学との合同で行われたため、口腔衛生やバリアフリーなどの分野も含まれたが、今年度からは、福祉分野（看護・福祉・栄養）の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続ける ための支援方法等について学修することを目的としている。 授業は、2日間の集中講義で、看護・福祉・栄養学科の合同で行われた。初日は講義、2日目にはグループワーク形式で演習が行われた。 今年度は講義、グループワーク共に遠隔授業となった。 受講動機は、「単位数の確保」との回答が58.3で最も多かった。「関心のある内容」として興味を示した者は、41.7%であった。集中講義であり、専門分野の異なる他学科の教員による連携講義のため、予復習を効果的に行うことは難しいと推察された。次年度は、看護・福祉・栄養に特化しさらに学生にわかりやすい講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は84±65.7点であった。理想的レベル（概ね80点以上)に達していた。 達成度自己評価の平均はは3.6～3.8点、中央値が3.0～4.0点であった。「的確に判断する力を得ることができた」では、平均が3.6点、中央値が3.0点とやや得点が低かった。授業形態がPBL形式であるため、学生が主体となって自発的に問題提起し、解決方法を検討していくという学習方法であるが、「的確に判断する」ことが苦手であることがわかる。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、学生による授業評価においては，ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必 要となる技術を身に着けることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めるていることから，内容的には妥当であると考える。 ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。 まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価においては、テスト等の評価基準、学習の範囲や課題などについて、平均点は3.3～3.9であった。中央値が3.0～4.0点であった。評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。遠隔授業でありながら、他学科の学生とともに課題の抽出やその改善方法について討議し、発表しなければならなかったため、個々で積極的に学習し、グループワークにそれを活用し、他分野の学科の学生と協働し意見を交換しながら学びを深めていた。そのため、授業の質の評価が3.9と高かった。逆に知識を得るための講義の時間は短いため、「説明が理解しやすいものであった」が3.3点とやや低値点数であった。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習到達度の自己評価から、殆どの学生が目標を達成し、新たな知識を得たと回答している。また学びを深めたいとの回答を得た。次年度に向け、これらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容や配布資料等について引き続き検討を重ねる。 昨年は「すごくやりずらかった」というコメントがあったが、遠隔授業に順応した学年であったためか、そのようなコメントはなかった。短期集中講義であるため、授業の進行方法やグループワークのやり方など、更なる検討が必要であると考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富　史枝

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	64

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。福祉に関するという資格をどのように生かすか、あるいは、方向性を変える場合も主体的な選択ができるようにキャリアコンサルタントから話をしてもらった。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象にへの言及が不足している学生が一部存在した。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	講義及びインターネット動画の鑑賞によって知識を得るだけでなく、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。特に、卒業生が偶然ではあるが福祉学科であったために、多様な選択肢について当事者性を持って考えることができた。コロナ感染拡大防止のためにすべての授業はオンラインとなり、外部講師の講義もオンラインでの受講となった。そのため、チャット機能やグーグルフォームを活用し、随時学生からの反応を得ることができた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。従来の課題は受講者人数が多いために個別的な対応ができないことであったが、本年度はオンライン授業の利点としてチャット機能などを活用し学生の意見を諮ることができた。次年度は対面で学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	阪井　俊文

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	12

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、キャリア形成のために様々な知識を身につけておくことの重要性を理解してもらい、担当者の専門である社会学の知見を基にして自身のキャリアについて考えてもらうことを目的としている。本学科は、アンケートの回答者数が少ないため、全学科を合わせた傾向でみる必要があるが、、「受講動機」では「関心のある内容だから」が多くなっており、本科目の意義についてはシラバスを通じて概ね伝わっているものと考えられる。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された			達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	毎回、講義のあとに感想や自身の考えをコメントするよう求めたが、ほとんどの学生が真面目に受講し、自身のキャリアについて真剣に考えていることが伺える内容であったことから、本科目の目標は概ね達成できたと考えられる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	アンケートの「自分なりの目標を達成した」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目で肯定的な回答が高い割合を占めていることから、内容は概ね妥当であったと考えられる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	アンケートの結果から、受講者の多くが本科目の予習や復習にはあまり時間を割いていなかった。自由記述の結果から、今年度は遠隔授業により学生の負担が増加していたことが伺える。学生にあまり負担をかけないよう配慮をしたつもりであるが、それは適切であったと考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アンケートの結果から、総合的にみて本科目の目標は概ね達成出来ていると考えられるため、次年度に大幅な内容の変更は必要ないと考えている。コロナの影響などで社会に様々な変化が生じている中で、今の情勢に応じた内容の講義となるよう工夫していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和　太

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	72

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①公衆衛生学IIは国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解、思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」は97.0%で、「資格取得に必要である」45.5%で、「単位数を確保する」は25.8%で、「関心のある内容である」15.2%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は93.0（±10.5）点でであった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していた。 ②今回の試験問題は標準よりやさしかったと思うので、今度は出題に関する工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者は97.3%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり，必須科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、関心意欲、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において，「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.2で、「授業中に自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.6であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.8で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.8であった。次年度に向けては，知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で，講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として，聞き取りにくいことがあったという意見があり、、今後は授業の進めるスピードを調整し、丁寧な講義にしたいです。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから，知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、関心意欲、態度の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかり説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき，授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から，毎回の授業のねらいを具体的に示して，予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ，来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡田 和敏

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	74

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学科の教育内容とは異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	教科書の読み直し、予復習、インターネットでの調べ学習に取り組み「学びを深めたいと意欲を得ることができた」に自己評価していることは評価できると考える。また、「自分なりの目標を達成できた」「的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」など自分なりの取り組みの姿勢を感じられた。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	「到達度」において自分なりに到達できたとする評価が4.0と高かったこと、また、社会福祉の各分野について必要性を感じてくれた学生から「講義で学んだ語句を家に帰って調べた」「授業内に出てきた社会制度において気になった項目を調べた」などの自由記述からもわかり納得できた。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	テキストの内容がより理解出来るよう、より客観的に統計資料などを用いて説明したい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成されたと考える。次年度以降、毎回の理解を確認する方法を検討したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部　明仁

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	選択	いいえ	62

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。 ④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は60名中57名で再試験者は3名であり、再試験の結果１名が再履修となった。この１名は本試験にて5科目以上不合格となり本科目の再試験を受験しなかったためである。残りの2名は再試験を受験し合格した。最終成績の平均点は75.7±8.6点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は47名と受講者の半数以上おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が23名いた。来年度は、平均点が理想的なレベル（平均点が80点以上）になるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90％以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」などについては、「少しそうでないと思う」以下が最大2割程度いるが、講義の性格上こういう機会が少ないことに大きな問題はないと考えている。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館およびインターネット等の利用を促したい。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全てclassroom上にアップロードしており、いつでもどこでもカラーの資料をダウンロードできる環境を整えていたにもかかわらず、予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習、復習する動機づけを検討したい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	77

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、その後の講義を進めた。講義は一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」98.0%、「資格取得に必要である」44.0%、次いで「単位数を確保する」14.0%であった。一方、「関心のある内容である」は、10.0%で、前年度(7.4%)よりは多少上がってはいたものの、生化学を意欲的な動機から受講する学生が少ないのは、例年通りであり、これは最初から予想されたことであった。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成･改訂し、配布しているが、今年度もキーワード･キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。 ③講義に用いるスライドは、遠隔授業に適するよう大幅に改訂を加えて用いた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の講義は遠隔で行った。本年度の定期試験は、遠隔にて出題し、期限内に遠隔にて提出させる方式を採用した。最終成績の平均点は52.1点、不合格者は再履修者を含めた受講者78名中21名(未受験者を含む)と昨年度より大幅に増加した。予習または復習をに０～２回しか行わなかった学生は､それぞれ34名および27名であった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な論理的思考力を問う問題を併せて約９割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約１割の割合で作成した。基礎問題だけでも充分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度の試験は､従来型の対面式で行なった。このことが合格率の低さに関係している可能性はある。学生の受講態度は、比較的まじめかつ積極的であった。また、論理的に考えたり、理解しようとしたりする姿勢が例年より多く見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を今後も促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、平均点、合格点共に低かったので、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確認することに努めたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる(input)だけではなく、理解したことを第三者に説明できるようにさせる(output)工夫を進めていきたい。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。生化学を意欲的な動機から受講する学生がほぼいない事実は、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明した。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成･改訂し、配布しているが、今年度はキーワード･キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。 ③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、大幅に改訂を加えて用いた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は、合格率、平均点とも昨年よりは低下したという意味では満足行くレベルではなかった。しかし本年度の学生の受講態度自体は、１年生、再履修者ともに全体的に意欲的であり、例年よりもむしろ良かった印象である。講義中に学生に発言させる機会をさらに設けて、学んだり理解したりしたことを説明できる力を伸ばす工夫を行いたい。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会は重要である。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	髙﨑　智子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
病理基礎医学	1	後期	必修	いいえ	63

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、1年生であり、疾病に対しての具体的な知識や興味はまだ持ち得ていないと考えられる。病理学は病気の原因や病態を理解する上で基本となる学問であり、疾病に共通する医学用語や概念についてまず理解していくことを目標とした。その上で2年生で学ぶ「疾病診断治療学」へとつなぐために、疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。 ②今期は遠隔にて授業を実施し、授業で使用するスライド資料は事前に配布した。 ③遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	定期試験を遠隔により実施したため、教科書や資料を利用しながら解答する方法をとり、正答が複数ある設問を作成することで理解度を確認した。本試験の成績の平均値は 79.9(±11.8)点であり、本試験受験者では再試験対象者は1名のみであったことより、ほぼ全員が標準的なレベル以上に達したと考える。昨年度の本試験成績の平均値 67.0(±7.6)点と比較するとかなり上昇したが、今年度は教員にとって2年目の遠隔授業であるため、遠隔における授業内容を準備をもって工夫できたことが功を奏したものと考える。遠隔試験においては思考判断を問う問題を増やすなど今後検討すべき課題はある。なお遠隔授業では授業に臨む姿勢を確認できないため、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。遠隔による授業や試験によって理解度を正しく評価することは難しいが、学生の授業評価アンケートでは、新たな知識の修得・課題検討力・判断力・学びへの意欲において特に学習到達度の自己評価が高く（4.1～4.4点）、前年度（4.1～4.3点）と同様に、遠隔授業においても非常に積極的に学習に取り組み学びを深めたことが伺えた。これらのことから、双方向性に授業参加を促すための方法を工夫するなどの検討課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、98％の学生が、新たな知識を得ることができ、自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識や思考を想定して授業内容を構成した。98％の学生が、課題検討力や判断力を得ることができたと肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、授業は理解しやすいものであったと考える。授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後はさらに質疑応答を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだと答えた学生は半数以下であったが、自由記述からは、他授業の課題が多く忙しかったために時間的余裕がなかったと答えた学生が多く見受けられた。遠隔授業に伴いレポート提出を課す授業は全国的に増えており、学生の負担が過重になっている状況がある。本学においても学生の授業外課題が増えていることを考慮し、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させる時間を作るようにした。自由記述からも、確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながっており、授業で配布した資料を活用しながら授業内に理解できるよう努めていることが伺えた。また必修授業が多く過密であるにもかかわらず、半数以上の学生が予習や復習のための時間を作っていることがわかった。次回の授業内容を事前に提示するなどにより、授業に対する準備・モチベーションを高めることをさらに心がけていきたい。なおインターネットを利用した調べ学習は不可欠であるため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法についても指導していきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、基礎的な医学知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価において概ね達成できたと考える。 2年生で学ぶ「疾病診断治療学」につながる科目としての知識を得ることができるように授業計画を練ったが、基礎的な内容であるがゆえに実際の臨床と結び付けて考えることが難しかったのではないかと推察する。学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、毎回の授業終了時の確認テストに加えて、授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだ。遠隔授業により授業外課題が増えている中でも、半数以上の学生は予習・復習をして積極的に自己学習に取り組んでおり、またほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。来年度は対面授業に移行していくものと思われる。授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やすための時間を作るなど、改めて対面授業のメリットを活かしながら、学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	髙﨑　智子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	76

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①前期で学んだ「疾病診断治療学Ⅰ」を基に、管理栄養士として必要な臨床医学の知識および考え方を定着させることを目標とした。チーム医療を担う一員としての医療の現場を想定して、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、医学と食物・栄養との関連についてのイメージを持ちやすくすることに努めた。特に医学および栄養学知識を持つことがいかに大切であるかを身近な問題としてとらえてもらうために、実際に起こった社会問題やニュースなどの事例を紹介し、その原因や予防・改善するための方策について提示するなど、学生の関心を引きつけやすいように工夫した。 ②授業で使用するスライド資料を印刷して配布した。 ③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。また授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。 ④改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。 ⑤学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。 ⑥毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業は対面であったが、定期試験は遠隔により実施した。遠隔試験では、教科書や資料を利用しながら解答する方法をとり、正答が複数ある設問を作成することで理解度を確認した。本試験の成績の平均値は 82.3(±10.5)点であり、本試験受験者では再試験対象者は1名のみであったことより、ほぼ全員が標準的なレベル以上に達したと考える。昨年度の本試験成績の平均値 66.1(±8.0)点と比較するとかなり上昇したが、遠隔試験においては思考判断を問う問題を増やすなど今後検討すべき課題はある。授業においては、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において、98％の学生が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。新たな知識の修得・事象を理解する考え方の獲得・課題検討力・判断力・学びへの意欲において特に自己評価が高く（各4.0点、前年度 3.8～3.9点）、積極的に学習に取り組み学びを深めたことが伺えた。前年度の授業が遠隔で実施されたのに対し、今年度の授業は対面で実施されたことも当然良い影響を与えたと考えられる。これらのことから、双方向性に授業参加を促したり、個々の理解度に応じてサポートしたりするための方法を工夫するなどの検討課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、98％の学生が、 新たな知識を得ることができ、自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。98％の学生が、「課題検討力や判断力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、授業は理解しやすいものであったと考える。授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後はさらに質疑応答を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだと答えた学生は53%にとどまっていたが、自由記述からは、他授業の課題が多く忙しかったために時間的余裕がなかったと答えた学生が多く見受けられた。遠隔授業に伴いレポート提出を課す授業は全国的に増えており、学生の負担が過重になっている状況がある。本学においても学生の授業外課題が増えていることを考慮し、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させる時間を作るようにした。ほとんどの学生が授業で配布した資料を活用しながら記録を作っており、半数以上の学生は復習を行って授業を振り返る時間を作っていることがわかった。自由記述からも、確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながったという意見が多く、復習を行うモチベーションとなったものと推察される。今後は、次回の授業内容を事前に提示するなどにより、授業に対する準備・関心を高めることを心がけていきたい。なおインターネットを利用した調べ学習は不可欠であるため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法についても指導していきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、管理栄養士に求められる医学的知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価において概ね達成できたと考える。今後は3年前期の「臨床基礎医学実習」へとつなげていき、実践的な知識の定着を図る予定である。修得するべき医学的知識は、生物学・化学など質・量ともに多岐にわたっているため、学生によっては消化不良であったと推察する。学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、毎回の授業終了時の確認テストに加えて、授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだ。遠隔授業により授業外課題が増えている中でも、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、またほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりするための時間を作るなど、改めて対面授業のメリットを活かしながら、学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動生理学	3	後期	選択	いいえ	8

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	運動が人体の各種生理機能に及ぼす効果を理解し、運動が体と心の健康を生み出すために重要であることを理解する。また、運動処方の重要性とその実際を学ぶ。 授業評価のポイントは、運動の種類、体力の種類、運動の効果を良く理解し、現実のスポ ーツや体力トレーニングの様々な問題を解決できること、 また健康状態を考慮して予防医学的立場から運動処方を考案で きるようになること、について評価する。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験では。平均90点であった。80％の理解を目標としたので、目標は達した。 全員この科目に100％のものが、興味で受講している。 達成度の自己評価は3.4～3.8と高い。 授業の質評価も、3.6～4.0と高かった。 学習量の評価は予襲復讐は2名であり、自発学習は0と少なく、この点が課題であろう。 情報利用は少なく、図書館利用車も少ない。 授業科目特性もあるが、授業内で吸収しようという姿勢が見られ、学生の意欲は個性に偏りがあると思われた。 課題を与えれ意欲を測ってみるようにしたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	栄養学は運動で使われるため、車の両輪の様な関係にあり、運動を学習せざるを得ない。 栄養学に詳しく慣ればなるほど、運動の仕組みに詳しくなる関係にある。しっかり栄養学の勉強に打ち込んでほしい。 受講動機が１００％興味が高いというのは初めてである。この様な風潮を持続したい。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	運動生理学は広く多岐にわたる学問なので、知識の積み重ねが大事である。実体験しながら学習することに尽きる。日頃の生活の中で、運動生理学的測定などの課題を行いながらデーターにも続く考え方を身につけながら行ってみたい。検索した文献をもとに議論をしたい。 遠隔になったことは非常に残念で、意欲的学生にもっと体験的内容に持っていきたかった。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	意欲的学生の意欲の方向性をタイムリーに動かしたい、その様な内容が展開できる科目と考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤　信哉

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	60

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、必須科目であり、管理栄養士国家試験に直結する内容である。 ②本科目を学ぶ上で、化学の知識を要求されるが、高校時代に履修していない学生も居たため、基礎的な内容の復習も同時に行った。また、身近な話題を取り入れて興味を喚起するように心がけた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①授業評価アンケートや成績を勘案すると、概ね達成できたと思われる。 また、前年度同様、化学の基礎知識が不足していることが把握できたため、化学が苦手な学生に合わせて授業を行うことをこころ掛けた。 ②評価結果 定期試験がオンラインであり、前年度より難易度を上げた問題を作成したが、概ね優れた成績であった。 平均点が８８点、秀２４名、優１０名、良１２名、可１２名、不可０名であった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は必須科目で、管理栄養士国家試験に直結する内容でもあるため、もともと学生の皆様の学習意欲が高い状態であった。内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価より知識理解について十分満足できる結果が得られたが、感染予防のため、こちらからの質問で答える形式ではなく、ボードを用いた4択問題で回答してもらう形を取っており、深い内容の質問を行うことが出来なかったのが、今回の反省点である。なお、一部の学生を除き、ほとんどの学生が試験にて優秀な成績を修めているため、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①前年度は、他の課題で忙しいと言う学生が多数見受けられたため、課題の量の波に対応できるよう、予習範囲のプリントを早めに配布し、課題が無い時に予習ができる環境をできるだけ整える事にした。 ②予習については上記の通り対応できたが、復習箇所の案内が巻末の練習問題を解く指示しかしておらず、不十分であったことは反省点である。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の管理栄養士国家試験内容における基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ②高校化学レベルの化学的な知識に到達してない学生も見受けられるため、予習や復習にてフォローできる体制が今後も必要と考えられる。 ③学生より、クイズなどが面白く分かりやすいという評価をいただいたが、さらに授業内容に工夫を行い、学生の皆様の興味を喚起できるよう取り組んでいきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	75

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数％にとどまり、アカデミックな授業を目指す上では決して好ましい状況ではない。授業を通じて、できるだけ受講生の学術的興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②この分野における国家試験の動向が変化してきたため、昨年度、プリントを中心に置いて不足分を教科書で補うという形式で授業を進めたところ、学習資料が二本化されたため学生にとって学習しづらい面が窺えた。そこで今年度は、教科書の内容、および、教科書に記載されていない内容の双方をプリントにまとめ上げ、学習資料を一本化した。 ③学習資料の一本化と併せて、記憶すべき要点を明確に示して授業を行ったところ、学習の習熟度が明らかに上がった。 ④管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。 ⑤授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に大きな悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならない。飴と鞭の匙加減が非常に難しい科目であるが、今期はその調整が大変うまく行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①受講生数 休学者２名があり７３名（昨年は６９名）が受講した。 ②今年度の合否結果 今年度は、遠隔試験という困難な状況での受講ということがあり、本試験を２回実施した（１回目は義務、２回目は任意）。２回の試験の試験問題は異なる問題とし、双方の試験結果の良い方を成績評価に反映させた。１回目の試験結果は本人に知らせ、１回目の得点が合格ラインに達しない者は２回目の試験を受験するように仕向けた。最終結果は、７３名中７２名が合格（昨年は６９名全員が合格）で、１名が著しく成績不良であったため再履修とした。 ③成績について 昨年に引き続き好成績であった。試験方式を調整したことも影響していると思われるが、この科目内容については、遠隔授業が適しているようである。 本試験の平均点は７９.７点（昨年は７２.４点、一昨年は７５.４点、その前年は６５.０点）、標準偏差は９.３（昨年は９.２１、一昨年は１９.３、その前年は２３.９）であった。秀は７名/９.５％（昨年は３名/４.３％、一昨年は１９名/２２.９％、その前年は９名/１０.１％）、優は３８名/５２.０％（昨年は１１名/１５.９％、一昨年は２５名/３０.１％、その前年は２０.２％）、良は２１名/２８.８％（昨年は３０名/４３.５％、一昨年は１９名/２２.９％、その前年は１９.１％）、可は６名/８.２％（昨年は２５名/３６.２％、一昨年は５名６.０％、その前年は１９.１％）、不可は１名（昨年はゼロ、一昨年は１５名/１８.１％、その前年は３１.５％）であった。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）学生が良好な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が向上したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①例年、「話すスピードが早い」との評価が多く、十分に注意して「ゆっくり明確に話すよう」心がけた。 ②遠隔授業においては、対面授業よりも頻繁に短い休憩を要れることによって授業効率が上がることを痛感した。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①基礎と応用の狭間にある科目であるが、「食品学」や「調理学」をベースにした基礎的知識の育成目標は概ね達成できた。 ②本科目で取り上げている「食品の機能性」に関する分野は、そろそろ他大学と同様、科目を独立させて良い時期にきているようだ。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	72

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数％にとどまり、アカデミックな授業を目指す上では好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②教科書を全面改訂したことと、遠隔授業ということもあり、今年度は昨年度までと違った様式で教科書中心の授業を進めた。１つの教材に絞って授業を行うことで、受講生の理解を深め、記憶する要点を明確に示すことによって、覚えるべき箇所がはっきりとし、定期試験の勉強がやりやすかったように窺えた。 ③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については特に時間をかけて解説を行った。また、授業評価を過度に甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうことがこれまでの経験から明らかなので、決して安易に単位を出してはならない科目である。飴と鞭の匙加減が難しい科目であるが、結果敵に、今年度は大変うまく行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①受講生数は、休学者２名、出席不足者無しで、受講者数は７０名（昨年は５７名）であった。 ②今年度の合否結果（昨年度・一昨年度との比較考察を含めて） 今年度は、遠隔試験という困難な状況での受講ということがあり、本試験を２回実施した（１回目は義務、２回目は任意）。２回の試験の試験問題は異なる問題とし、双方の試験結果の良い方を成績評価に反映させた。１回目の試験結果は本人に知らせ、１回目の得点が合格ラインに達しない者は２回目の試験を受験するように仕向けた。最終結果は、７０名中６９名が合格で、１名が著しく成績不良であったため再履修とした。 ③成績について 結果は例年に比べ成績優秀者が増加しており、好ましい結果であった。本試験の平均点は７９.０点（昨年は７２.１点、一昨年は７４.４点、その前年は６０.０点）、標準偏差は１０.６（昨年は１０.４、一昨年は２９.６、その前年は２０.４）であった。秀は１５名/２１.４％（昨年は４名/7.0％、一昨年は１２名/１３.８％、その前年は１名/1.2％）、優は１３名/１８.６％（昨年は９名/１５.８％、一昨年は２０名/２３.０％、その前年は１４.８％）、良は３６名/５１.４％（昨年は２１名/３６.８％、一昨年は２１名/２４.１％、その前年は３０.９％）、可は４名/5.7％（昨年は２３名/４０.４％、一昨年は１８名/２０.７％、その前年は１３.６％）、不可は１名（昨年はゼロ、一昨年は１６名/１８.４％、その前年は３９.５％）であった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生が優れた成績を収めたことから内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して成績が優れていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	教科書中心の授業は、受講生にとって大変分かりやすかったようである。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①基礎と応用の狭間にあり、国家試験における出題数の多い科目として重要な位置づけにあるが、基本的な知識の形成については概ね達成できた。 ②「食中毒」と「食品添加物」についてもう少し理解を深めさせるための時間が必要であると感じた。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の補講で上手く対処すべきである。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田　洋

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	55

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。今年度は前期・後期ともに遠隔授業での実施となったが、課題レポートのなかで適宜、講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。また、今年度は食品学Ⅱの講義も前期に担当したことから、本講義との重複部分を避けながら、かつ重要な部分は本講義でも取り扱うことにより、受講者の幅広い知識の修得と理解度を深める配慮を行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者は55名で、休学などで2名の離脱者があったが、47名（85％）がA評価であった。またB評価も6名（11％）であった。2019年度はA評価の割合が82％で、2020年度が87％であったことから、2021年度における教育の質は引き続き高いものになったと考えている。またＤＰの（8）以外の項目について、平均値が3.7～4.1であった。（8）は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項であり、全ての講義を遠隔講義でやったことによる影響が大きく、平均値が3.3であった。また学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。本演習にまで学習時間が確保できないことが考えられるが、次年度以降は事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、ほとんどの回答者が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が3.9であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については平均値が3.2～4.4と大きな幅があった。2020年度（遠隔講義と対面講義のハイブリッド）は3.5～4.0、2019年度（全て対面講義）が4.0～4.2であったことから、オンライン形式での講義の影響と考えている。特に低かった3.2は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目であった。オンラインでこのような機会をつくることは難しいかも知れないが、次年度は対面授業の予定であることから、この点については留意したい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「担当教員への自由記入欄」では全て好意的な意見であったことから、教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を充分に達成していると思われる。学習量の評価では関心をもったことについて深く調べた受講者も多かったが、「する必要がない」や「何をしたら良いのかわからなかった」と回答した学生が目立ったことから、次年度は受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	55

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は「フードスペシャリスト」の受験資格を得るために必須とされている科目であり、受講動機「関心のある内容である」は数％にとどまり、専門選択科目としては好ましい状態ではない。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を惹きつけるように務めた。 ②教科書を中心にスライドを活用して授業を進めた。授業の最後に、理解度を試すための課題を提出させたところ、これが大変大きな効果を発揮し、受講生の理解を深めることに役立った。 ③教科書はフードスペシャリスト協会から指定されたものであるが、今期、大幅に教科書が改訂・刷新（７割ほどの内容が新しくなった）されたため、昨年までの古い統計データが一新された点が良かった。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①受講者数は、５５名（昨年は４０名）であった。 ②授業は１４回全て、対面で実施した。 ③受講態度が良く好感が持たれた。 ④毎回の課題にも、ほぼ全員が丁寧に回答していた。 ⑤定期試験（成績評価の７割）は、内容が一新されたためフードスペシャリスト試験の過去問を使うことが出来なかったので、今回は、理解度を徹底的に試すための「記述式」の試験とした。 ⑥その結果、総合評価は、平均点が７１.５点（昨年は９９.１点）、標準偏差は１３.４（昨年は３３.９）、秀４名/7.2％（昨年は３１名/７７.５％）、優９名/１６.４％（昨年は４名/１０.０％）、良２２名/４０.０％（昨年は３名/7.5％）、可１８名/３２.７％（昨年は１名/2.5％）、不可２名（昨年はゼロ）であった。昨年の結果に比べ、成績は下がったが、昨年があまりにも良すぎたので、今年度の評価がより妥当性が高い。不可２名については、救済のためにレポート課題を課したが応じて貰えなかったため、最終成績「不可」とした。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門選択科目」であり、フードスペシャリスト試験に必須の科目である。そのため、受講生は「就職試験の際に提出する履歴書の資格の欄を埋めるために時仕方なく受講する側面」があり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える、現代社会で国際的に起きている社会現象なども併せて解説する、など）、学生がその内容に興味を持ってくれたことから、内容的には妥当であった。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」について十分満足いける結果が得られたので、内容的には妥当であった。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①授業を通して、次第に受講生の興味と関心が湧いてきたことが窺え、成功したと思われる。 ②管理栄養士の国家試験とは、かけ離れた文化系的な内容の授業であり、毛色の違った学びが得られることをうまく受講生に示すことができた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	次年度から科目担当者が変わるので、リフレッシュして、より良い講義が行われることを期待したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部　明仁

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	61

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	○	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義の復習を促して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせて可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。 ②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価にて「コミュニケーション力や表現を高めることができた」について「少しそうでないと思う」以下の回答が10%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が90%以上を占めている。 加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。 図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。 以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわ多ことがうかがわれる。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が90％以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断できる。座学の解剖生理学が前期で終わった段階でこの実習を行っているが、前期の座学の復習という形で知識の定着ができたと考えている。 図書館にて本で調べるということがほとんどできていないことについてもは、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているので、大きな問題はないと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。 この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤　信哉

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	60

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、必須科目であり、管理栄養士国家試験に直結する内容である。 ②化学実験を行うに当たり、基礎的な化学知識を要求される。また、実験器具の使い方は特に丁寧に説明を行い、事故の防止に努めた。 ③前年度使用した実験内容動画をクラスルームに提示することで、予習を効果的に行えるよう環境を整えた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①授業評価アンケートや成績を勘案すると、概ね達成できたと思われる。 クラスルームの実験内容動画で予習してきている学生も多く、前年度と比べると実験内容をしっかり理解できている学生が多かった。一部の学生を除き、こちらからの質問にも的確に答える事ができたため、予習動画の影響が大きかったと思われる。 ②評価結果 成績は、平均点が９１点、秀２４名、優１９名、良１１名、可４名であり、前年度よりもさらに優れた結果となった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は必須科目となっており、身近な食材を用いた化学実験で新鮮味のある内容であったため、学生の皆様の学習意欲が高い状態であった。内容的にも妥当であったと考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価より十分満足できる結果が得られたが、今年度より助手の先生が2名から1名になったため、監督の目が少なく、安全を確保するために、実験の順番を指定して安全にかつ効率よく行えるように心がけた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①食品学１と同様に、他の課題で精一杯であると言う学生が居たため、予習の時間を効率的に行えるように、昨年度用いた実験動画をクラスルームに早く提示することで、他の課題が無い時に予習できる環境を整え、学生側の負担を減らすことができた。 ②授業の課題以外に具体的に取り組む内容を指定しており、それらをきちんと実施した学生は、テストでも良い点数を獲得していた。今後は、課題以外の取り組みをしっかりチェックできる体制の構築が必要と感じた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の管理栄養士国家試験内容における基礎的知識の形成については概ね達成できたが、初回授業がオンライン授業のため実際の器具を用いた実験が行えず、ピペット操作などの練習が不十分な結果となってしまった。 ②実際の実験器具を用いて、身近な食材の特性を学ぶ実験のため、学生の満足度は高かったと思う。 ③今後の課題は、一部学生が予習をあまり行っておらず、班の中でも理解度に差が見られたため、フォロー体制の確立が必要であると考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	選択	いいえ	76

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は2年次後期管理栄養士必修の実習科目で履修生は76名である。受講動機は必須科目である94.4%、資格取得に必要である52.8%であった。 授業の実施にあたり大切にしたことは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト（化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・淺川雅美著）を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。 2017年度より、学生の学力に合わせ、また２年後期開講の時間割上、授業外で予習・復習する時間のない状況が続くため、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、テキストの例題の解答に時間をかけた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された			達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価割合は次の通りである。なお（ ）内は昨年の値である。 授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。4または５と評価した学生が、1または２と評価した学生より多くなっている。 １＆２ 4＆５☒ 8% (22%) 51% (18%) (1) 自分なりの目標を達成した 8% (18%) 65% (42%) (2) 知識を確認したり、新たな知識を得ることができた 10% (18%) 57% (50%) (3) 事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた 10% (14%) 51% (46%) (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 11% (16%) 46% (44%) (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた 11% (16%) 53% (44%) (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 14% (14%) 63% (50%) (8) コミュニケーションカ表や現力を高めることができた 上記の本科目に関連するDPの達成度自己評価および、成績評価AとBを合わせた割合が30%であることからＤＰの達成目標は達成されたと考えられる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	上記到達度自己評価の結果to、DPにおいて内容的に妥当と考える。 加えて本科目は専門教育分野に属し、CPは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。 一方、本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価では、「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りであった。なお、（ ）内の数値は2020年度の値である。 10% (0%) (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる 10% (11%) (2) データの種類について説明できる 17% (22%) (3) 仮説検定について説明できる

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	自由記述で「説明が早すぎて理解できない」と記載したものが8名（10.5%）、成績評価でE評価の学生は5名（6.6%）であり、昨年同様、応用問題から数式を導くことのできない学生も含まれていたが、昨年に比べて基礎的な数学および記述統計学についての説明に時間を割いたことが功をなしたと考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	以上の分析結果よりおおむね目標は達成したと考える。 しかしながら、小学校で学ぶ比例計算で躓く学生が少なくないことに加え、近年の管理栄養士国家試験問題において、記述統計の知識を問う問題や、問題文から数式を立てる問題が出題されるようになってきたこと、また医療福祉分野においても人工知能が利用されるようになり、人工知能で使われる手法の基本は統計学であることも踏まえて、1年次に記述統計学を学ぶ科目を開講した方が良いように思う。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田　志麻

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	選択	いいえ	59

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは学生自身が調理操作を行い、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため学生が自ら、多種のメニューを作れるよう師範を短縮し、講義内容はテキストでの説明とポイントに絞り、自ら考え作ることができるように促した。 ②応用調理学ではあるが、１年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取りいれた。 ③１年前期との違いは、担当した献立のみを作成するのでなく、作業工程全体の流れを把握し全部の献立が作れるよう指示・指導に努めた。 ④事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された			やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績平均値は88.8±5.9点と標準レベルであった。この実習は実習後のレポート得点を加味するため、レポートの内容により、評価が左右された。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは58名中54名であった。到達度自己評価の平均値は4.3～4.6点、中央値は4.0点と高かった。項目ごとに平均値と中央値を見ると「自分なりの目標に達した」が4.4、4.5点、「知識を得た」が4.6、5.0点、「課題を検討する力を得た」が4.3、4.0点、「的確に判断する力を得た」は4.5、5.0点、「学びを深める意欲」4.6、5.0点、「技術を身につけた」が4.6、5.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.5、5.0点との評価であった。以上のことより、1年前期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術が向上し、自信となり、今後の学習意欲につながったこと考えられる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり，必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を１年前期の基礎調理学実習と１年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の平均値は4.2～4.7点、中央値は4.0～5.0点であった。学習するべき範囲は明らかで（4.7点）、説明は理解しやすかった（4.5点）の結果より、学習のポイントを的確に理解し、修得できたと考えられる。 予習及び復習に関しては、毎週、実習を行うため、ある程度の予習が必要であり、また、実習後には、レポートや栄養価計算の課題の提出が必須であったことから、予習及び復習の時間が確保されたと考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため，基礎的知識の形成については概ね達成できた。 ①初回は１年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②毎週実習後の感想をレポートに記載してもらい、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。 学生のレベルに応じた個別の対応により、技術指導や学習指導を心がけ、学習意欲を高めることが重要であると感じられた。また、１年時の基礎専門科目であるため、できないのでなくできるように指導し、成功体験を得ることで留年や退学を招かないよう、未然に防止することを努めていきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	61

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機に対する回答で、ほぼ全員の学生(45名中44名)が「必修科目である」ことを理解しているが、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは44.4％であり、また、「関心のある内容である」と答えたものは11.1％に過ぎなかった。栄養学の基礎的知識が、管理栄養士資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士業務の実践の場でも重要な基礎的事項であることを毎年、強調しているが、なかなか浸透しない。基礎栄養学１の講義は1年生後期の授業であるため、基礎栄養学の化学的な知識・考え方と管理栄養士としての具体的な業務との関連がまだ明確になっていないことも関心の低さに影響していると思われる。基礎栄養学の知識を実践の場でどのように活かすかをできるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ①今年度は新型コロナ感染がある程度落ち着いたので、1回目の授業以外はすべて対面で実施した。また、授業の終わりに、その日のテーマに関する練習問題を学生にあて、口頭で答えさせるようにした。 ②授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるように改善している。 ③授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約５年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値(100点満点)は、Aクラス82.5点(±10.9)、Bクラス82.0点(±7.5)、A・Bクラス合同で82.2点(±9.3)であった。本試験は、出席不足で受験資格がなかった2名(共にAクラス)を除き、全員が合格した。成績の分布は、90点以上がAクラス35%、Bクラス10%、80点～89点がAクラス26%、Bクラ43%、70点～79点がAクラス16%、Bクラス40%、60点～69点がAクラス16%、Bクラス7%であった。Aクラスは90点以上が多い代わりに60点台も比較的多く中間層が少なかった（42%）のに対し、Bクラスは80点台、70点台の中間層が多かった(全体の83%)。今年度の期末試験は昨年度と同様に、問題形式の課題をオンラインで送信する形で実施したので、結果的に「資料・教科書持ち込み可の試験」と同じやり方になったこともあり、昨年度と同様にA・Bクラスともかなり好成績であった（A・Bクラス平均点：一昨年度72.5、昨年度87.3、今年度82.2)。今年度も授業の終わりになるべく多くの学生にその日に学習した分野の練習問題を口頭で答えさせるようにしていたことも、好成績に影響しているかもしれない。授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、項目(1)～(7)については3.7～4.1で、昨年度(3.8～4.2)と同じか0.1低い評価であったが、一昨年度(3.4～3.8)に比べれば高い評価であった。項目(９)「職業倫理・行動規範」の3.7および項目(10)「職業選択の参考」の3.8は、昨年度(各々3.5、3.7)、一昨年度(各々3.3、3.6)より高い評価であった。例年得点の低い項目(８)「コミュニケーション力・表現力」については、授業中に質問し口頭で答えさせることがこの力をつける一つの方法と思われるが、学生の評価はかならずしも高くなかった（一昨年度3.1、昨年度3.2、今年度3.2、大学平均3.5)。「学習量の評価」で、30分以上の予習または復習を１回以上実施した学生が予習53%、復習60%と昨年度(各々49%、63%)とほぼ同じであった。今年度も昨年度同様、授業のプリント資料を実際の授業の前に配付したこと、練習問題・国試過去問解説をなるべく早期に配付したことが効を奏したのかもしれない。以上より、まだ改善すべき点は多いが、一応の教育目標を達成できていると考えている。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり，卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えているが、「３．授業準備について」でも述べたように、資格取得に必要であると答えた学生や、この科目に関心がある学生が必ずしも多くない点は、今後の課題である。ただ、期末試験の成績において良好な成績を修めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績は例年通りおおむね良好に維持されていることから，内容的には妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」の今年度の得点は、一昨年度よりは増加していたが、昨年度よりはすべての項目で低下していた（一昨年度3.0～3.6、昨年度3.6～4.3、今年度3.2～4.0）。特に、項目（1）の「明確な評価基準」、項目（3）の「説明の理解しやすさ」は、昨年度よりかなり低下して一昨年度とほぼ同じレベルになっていた（項目(1)；一昨年度3.6、昨年4.3、今年度3.8： 項目(3)；一昨年度3.4、昨年度4.0、今年度3.2)。得点の高かった昨年度の授業は、後半の3分の2がオンラインで実施されたのに対し、今年度、一昨年度はすべて対面で実施された。基礎栄養学の講義はパワーポイントのスライドを見ながらの授業になるが、科目の性質上、比較的込み入った図が多いため、広い教室のスクリーンで見るより各自がモニターで見る方が分かりやすいのかもしれない。特に、今年は「密」を避けるために、間隔を取って席についてもらったので、後ろの方はスライドが見にくく集中できなかったかもしれない。 例年、得点が低い項目(４)「授業中の学生の参加・発表」と項目(５)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」については、今年度も昨年同様に授業の最後に練習問題を出して学生に答えさせる時間を多くとったことで一昨年よりは得点が増加していた。また、「早口で分かりにくい」とよく指摘されるので、なるだけゆっくりと話すことを心掛けたが、今年度はこの点の指摘はなかった。以上、昨年に比べると評価が下がってしまったが、学生の成績は昨年度と同様に良好であったことから、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと思われる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎栄養学の基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践の場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	いいえ	62

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①栄養学概説は、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が96.6％であることは当然の回答である。今年度は各担当教員が、分野毎に確認試験を分けて行うなどの改善を図り、さらに講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにした。学生からもこの科目を学んだことで「知識を確認、修正、新たに得ることが出来た」と多くの学生たち(98％）が評価しており、今後に修得していく科目へ学びを繋ぐことへ貢献できたものと考える。 ②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。2人の教員によるオムニバス講義であるが、2教員ともスライド資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。食品成分表の担当教員は実務家教員でもあるため、基本の講義は勿論のこと、より実務に即した講義を展開している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を％で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。次年度以降も学生たちの学修レベルの把握をしながら講義の進行をしていく必要がある。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1(知識理解）、DP2（思考判断）、DP3（意欲関心）に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス73名の受講生中、A（秀）が4名（6.5％）で、B（優）が17.7％であり、C（良）が30.6％であった、D（可）が35.5％と高く、不可の学生が8.1％であった。受講生の約92％が標準的レベルに至っており、講義内容や試験方法はこのままで実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」との回答が多かった。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約26％の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、今年度は学習のためにインターネットを利用して検索学習を行う学生が多くいた（48％）。インターネットだけではなく、図書館の利用に関しても、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が96.6%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約26%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は60%と今年度も高かった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できたものと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目へのつなぎにあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものと考える。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	75

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100％は当然の回答であり、「資格取得に必要である」が56.6％、「関心のある内容である」が17％と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年後期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。 ②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。2021年度後期はすべてオンラインによる講義であった。オンラインによる講義でも、毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を％で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力しているが、オンラインになってからは、質問は殆どなくなった。しかし、小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1(知識理解）、DP2（思考判断）、DP3（意欲関心）に関しては、定期試験結果から評価した。定期試験はオンラインにて実施した。試験結果は51名の受講生中、A（秀）がわずか4％、B（優）が28％、C（良）39％と良が一番多かった、D（可）が20％で、不可の学生は5名（6.7％）であった。また、DP4（態度）やDP5（技能・表現）に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル（今回は秀90点以上として試験を作成し評価した）に達している学生は4％とかなり低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も28％のため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、58％の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。対面授業が可能になったため、今後は特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100％なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、58％の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は55％と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だという思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の50％が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものと考える。3年前期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	はい	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	人間は動くもの（動物）の一員である。摂取された栄養素は我々が身体を使うとき、体内で様々に代謝され、その活動を物質的に支える。しかしながら、今日のように日常生活様式が機械化され、情報化されて便利になってくると、日常の身体活動が低下し、本来そのために使われるべき栄養素と遺伝的に備わっている代謝機能が十分に活用されず、体内での栄養素の代謝が不活発となる。一方、「飽食時代」と言われるように、「食」に関しては、好きなものを、いつでも、いくらでも食べることができる。この様な身体活動や食における生活習慣の変容が、今日の生活習慣病の増加をもたらす大きな要因となっている。 本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに重要であるかを学ぶ。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.2（±10.2)点であり，再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが，理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達し たものは49名（50名中）と素晴らしい成績であった。 目標別に見ると，知識理解に関しては94%，思考判断に関する問題は94%であった。さまざまな場合をイメージする力をどのように獲得していくかという課題について，次年度にむけて検討したい。 課題の理解という点は，正解率が非常に高く、 学生による授業評価において知識理解の観点，思考判断の観点での自己評価にあまり差がない。次年度に向けて，ルーブリックで示すだけでなく，各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。 なお，国家試験を受験を前提に事例の取り上げについては，さらに検討を進めたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに重要であるかを学ぶ。 受講動機は81％が必須科目という事で受講している。そのほかに資格に必要であるが47％である。 残念なのは関心があるが6.4と低く、栄養学科の学生が応用栄養の必要性を理解ができていないと感じる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	３人の教員で進めている。それぞれの評価基準があるが、平均的に80％の理解度を目標にそれぞれの教員で、授業改善をおこなっている。 授業の質の評価は3.3～3.6であった。受講生の半数は予襲復讐を行なっている。 情報の利用は半数以上が利用している。図書館の利用は大多数であった。 学習状態は順調と考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習は意欲があることが、成就するポイントである。基礎力を応用するこの科目に興味を持つように動機づけに力を入れたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原　真奈見

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	71

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本３年生における受講動機は，「必修科目である」が100.0％であり，「関心のある内容である」は16.4％と少ない状況であった。そこで，理論の一方的な説明にならないよう配慮し，関連する管理栄養士国家試験内容等の紹介等も織り交ぜることで，関心を引きつけるように配慮した。 ②授業の最初に，将来の希望職種に関する調査を行い，管理栄養士の資格を生かした職を希望する者が多いことを確認した。希望は，保育園や小学校，病院，行政等，多岐に渡っていたので，幅広い対象における知識が深まるよう配慮した。 ③授業の始めに毎回，確認テストを行い，学生の復習への意識を高め，学習状況を確認するようにした。また，確認テストの解説を丁寧に行うことで，前回の学習内容の確実な定着を図り，当日の講義内容の理解につながるよう講義と講義のつなぎに重点をおいた。

4．学生の目標達成状況について

（１）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった

（２）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終試験の得点の平均値（±標準偏差）は75.4（±9.2）点であり，90点以上が7.4％，80点以上90点未満が22.1％，70点以上80点未満が48.5％で，合計でおよそ8割が70点以上に達した。出席や平常点等を加味した最終成績の内訳（休学者・退学者を除く）は，Aは0人(0.0％)，Bは28人+B3(41.2％)，Cは32人(47.1％)，Dは8人(11.8％)，Eは0人(0.0％)であった。 項目別に見た平均値（±標準偏差）は，知識理解を問う問題（60点満点）が56.4（±4.3）点，記述問題（30点満点）が13.5（±5.3）点，思考判断を問う問題（10点満点）は5.5（±3.6）点であった。記述力や思考判断力に課題はみられるが，知識理解の得点率は非常に高く，目標は達成されたと判断した。意欲関心や態度については，講義への出席率や毎回の小テストの成果，指名質問に対する回答内容等から判断して，おおよそ目標は達成されたと判断した。遠隔の講義形式であった影響で，技能表現を評価する観点が少なかったことから，次年度は学生の発言の機会を増やす等，検討を重ねたい。 学生による到達度自己評価では，「コミュニケーションや表現力を高めることができた」の項目以外の他の全ての項目において，97％以上が肯定的回答をしていた。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり，必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから，様々な理論の理解が求められると同時に，応用的な思考力・判断力を身に着けることも重要である。行動科学に関する理論や栄養教育マネジメントの理解が進むように配布資料内容を吟味した。学生は，小テスト及び本試験において一定以上の成績を修めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 自己評価において「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関する評価が比較的低かったのは，実習や演習ではなく，講義形式であることを重んじたこと，また遠隔講義であったために意思疎通が図りづらかったことが理由として考えられる。コミュニケーション力や表現力に関しては実習科目の中で十分に補填していること，知識習得に関する成績は非常に良好であったことからも，内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	前年の関連科目の講義における学生評価の中で，「小テストの回答を詳細に示してほしい」との意見がみられたため，本講義においては小テストの解説をより丁寧に行った。1週間前の講義内容の繰り返しとなるため重複を感じる学生が多くないか危惧していたが，多くの学生が小テストを好意的にとらえてことがアンケート内容から伺えた。この『栄養教育論Ⅰ』で教示した理論を『栄養教育論Ⅱ』の実践的内容につなげていきたい。 今回，学生の意見の中に要望等はみられなかったが，次年度は対面講義に切り替わるため，学生の反応を確認しつつ、わかりやすい講義実施に努めたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	管理栄養士として社会で活躍するために，栄養教育に関する様々な理論や教育の計画・実施・評価・改善の一連の流れを学ぶという観点から，基礎的知識の形成については概ね達成できたが，本科目の授業外の学習量が少なかったことは課題である。その理由の一つとして「何をすればいいのか分からなかった」という回答もみられたことから，自主学習のやり方についても助言をする必要があると感じた。講義で伝えたことはよく理解できていたが，応用力の定着にまで至らなかったことは考慮すべき点である。 講義であることを意識して知識の伝達に重点をおいたが，次年度からの対面講義では学生自身に考案・発表させるような機会も設けたい。但し，知識の定着を図ることは大前提として必須事項であるので，毎回の小テストの解説を利用して前回の講義内容の復習を徹底する取組みは，次年度も続けていきたいと考えている。 以上から，今後は，応用力の定着につながるような学習に導くこと，学生自身が発言をできる取組みを増やすことに留意していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋　英津子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	後期	選択	いいえ	49

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の到達度自己評価では約95％の学生がすべての項目において、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。本科目では、コミュニケーションスキルを高めることが必要であるため、授業の中でワークを取り入れコミュニケーションが高まる工夫をしている。オンライン授業でもその点は重要視して実施した。そのため、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は100％であった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ず身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約95％の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても90％以上の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないと考える

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今年度はオンライン授業であったため、コミュニケーションにおいて工夫が必要であった。この科目はカウンセリングスキルの修得も目指しているため、オンライン授業の中でもグループワークを行ったり、コミュニケーションがとれる工夫を取り入れた。到達度自己評価においてもコミュニケーションや表現力を高めることができたという項目が4.3と高かったため、問題なくすすめられたと考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村　貴子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	73

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①2年後期になると、基礎的な知識に加え、管理栄養士として実践に向けた専門的知識が問われる。そのために、具体的な栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)、栄養補給、栄養教育、モニタリング項目、食品と医薬品の相互作用等についての理解を深め、総合的な栄養ケアマネジメントを実践するための専門分野の中でも基礎的な考え方を修得できるよう、事例を多く提示するよう心がけた。 ②専門的な用語が増えるため、毎時限に確認問題を配布して、復習への意識を高め、小テストの実施により学習状況を確認した。 ③すべてが遠隔授業であったため、学生の自由発言を促すよう匿名での授業参加ツールを利用した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験での成績の平均値は65（±15)点であり、若干標準的レベル(70点以上)には至らなかった。また、標準偏差値が高いことから、学生の修得状況における個人差が大きかったと考えられる。本科目は臨床栄養学の導入科目のため、初めて知る専門用語や略語が多数あり、修得状況も個人差が大きいことから、教育目標の達成は一部のみであったと考えられる。学生にとって、難易度の高い科目でああることが明らかとなった。 学生からの「スライドの切り替えが早い」という意見から、次年度以降、標準的レベルに達する学生の割合を増やすことを目標に、授業の進行の見直し、予習の実施、復習テストの見直し等、次学年の学習意欲や習得レベルに合わせたさらなる強化の必要性が明らかとなった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、管理栄養士が臨床で担う専門性や役割ついて学ぶ科目であり、3年生、4年生で履修する栄養治療学、臨床栄養学実習、臨地実習Ⅱといった、より臨床栄養分野の実践的な科目へ繋げる導入科目でもある。学生の学習到達度の自己評価において、60％の学生が職業選択の参考になったと回答し、「病院などの仕組みを知れた」と感想を記述していたことから、病院や福祉といった臨床で活躍する専門職業人である管理栄養士を目指す礎になる内容であったと考えられる。 学生の受講動機として「関心がある内容である」と回答した学生は9名（20.0％）であったことから、オリエンテーションや各授業において、学ぶ意欲につなげるための動機付けを行うといった工夫が必要と考えられた。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今年度は、すべて遠隔によるオンライン授業であった。そのため、学生参加の機会を作るため匿名でのコメントを表示するツールを利用した。授業の質評価において「学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」といった点での評価は高かった。授業内容では、「授業が楽しかった」「説明がわかりやすかった」と意見する学生がいる一方で、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6と低く、学生の意見に乖離があるった。次年度は、対面授業を予定しているため、スライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるよう改訂を加えていく必要性が考えられた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める臨床栄養学分野の導入科目である。特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。しかし、学生にとっては専門的用語が飛び交う科目であり、学生によっては難易度の高い科目であることも明らかとなった。確認を促す復習手法を継続しながらも、授業進行における説明方法や進行速度に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	彌永　清子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 ②栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。そのため、授業に集中して参加することで効率よく理解を深めるためにも、確認テスト・管理栄養士国家試験問題を導入することで、知識習得につながるよう努めている。 ③インプットだけではなく、アウトプットを行えるように授業ごとに資料を作成した。 ④受講動機をみると「関心のある内容である」の選択率が3.1%にとどまっている。できるだけ具体的な事例を挙げて，関心を引きつけるようにしている。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	栄養治療学Ⅱにおける〝学生が達成すべき行動目標〟を鑑みた後期試験を作成し、その結果からの評価をまとめた。オンライン授業にもかかわらず、授業終了後に授業内容の復習を兼ねての質問を受けることもあり、意欲関心を示す生徒の様子がうかがえた。当該学年においては、学生の能力の差が大きく、修得状況の違いが個々によって異なったため、評価の幅が広がり、点数の二極化もみられた。臨地実習Ⅱにむけての学びを深めるために必要な科目であるため、次年度以降、確認テスト・管理栄養士国家試験対策問題の実施に加え、他に何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全員の学生93.7％が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全ての学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、今年度の学生は、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えれ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本科目は、臨地実習Ⅱ・管理栄養士国家試験にむけて必要となる科目である。にもかかわらず、資格習得に必要だと感じている生徒は半分以下という結果であるため、生徒の目的意識の低さが感じられる。今後は、栄養治療学Ⅱを学ぶことで将来の管理栄養士像をイメージできる授業展開も必要だと感じている。そのためにも、臨床現場での経験談や事例なども踏まえた授業展開も取り入れていきたいと考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村　貴子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。加えて、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である（75.8%）』『資格取得に必要である（63.6%）』との理由が主であった。 一方、自発的学習に取り組んだ学生は約30%程度と少なかった。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと思われる。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は68(±13.1) 点であった。本科目は、臨地実習Ⅱ（病院実習）に向かうために、2年後学期から開始された臨床における栄養ケアマネジメントの考え方を理解と実践力と培う必要がある。そのため、「今まで学んだ資料を見返した」学生が多数いた。また、到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と回答した学生が半数以上を占めたことから、知識理解については、向上が認められたと考えられる。 しかし、「他の授業科目がテストに出るのはおかしい」といった意見があり、回答者の半数がシラバスの活用を行っていなかったことから、本科目の内容について説明が不足しており、意欲関心の向上を促せなかった可能性が考えられた。以上より、全体的な目標達成状況は、「どちらともいえない」と評価した。次年度より、授業開始時のオリエンテーションで科目の意味をしっかり説明する必要があると考えられた。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、90％を超える学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。同様に、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においても、『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものと考える。後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本科目は、今まで学んだ基礎知識を総合的に整理して、臨地実習Ⅱに向かうための準備科目の意味合いもある。しかし、回答者の半数がシラバスの活用を行っていなかったことから、次年度は、本科目の意味を説明する機会を設ける必要性がある。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている病院管理栄養士や医療に関する法律の専門家等を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものと考える。授業の進め方として、初回授業においてオリエンテーションを充実させることが課題である。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「必修科目である(81.4%)」と「資格取得に必要である(42.3%)」が高く、一方「関心のある内容である(3.0%)」は低い値であった。昨年度とほぼ同じ傾向であるため、できるたけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ3.9であった。昨年度より平均得点は0.2ポイント上昇しているものの、傾向はほぼ同様で、各項目の得点間にバラつきはなかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	授業への「意欲関心」の低さや、その点とも関連して全般的に主体的な学習活動が低い傾向になる。また、「他の授業の課題を達成するのに精一杯で、時間的な余裕がない」との意見も多い。しかしながら、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったことから、昨年と同様に内容的は妥当であったと判断した。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、昨年度と同様の傾向だった。講義系科目で、授業回数は１単位分の８回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この点については、学生が図書館やネットを利用して調べ学習を行う時間を設けるなど、引き続き学生の主体的な取組みを促したい。その一方で、授業後の学生からの感想の中には、「これまでの自分の認知症に関する理解の不十分さに気づいた」とのコメントもあり、一つの授業の効果と受け取っている。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。さらに、介護と「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて課題を呈示するなど、図書館などにおける主体的な学びを促したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田　郁子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	72

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	○	○	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、卒業必修科目であり管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、臨地実習Ⅲにも必要な科目であるが、栄養改善を通して 公衆衛生の向上を図る実践科学であることがイメージしにくいことから、受講動機『資格取得に必要である』48.1%と低いと考えられる。 ②本科目の達成目標は、わが国の健康・栄養問題の現状と課題を知り、それらに対応した主要な栄養政策・施策を理解し説明でき、栄養関連法規、地域や集団の健康の保持・増進さらに疾病の予防に対する公衆栄養活動を効果的に行うために必要な知識と技術を修得しすることである。まずは、関係法規を理解すること、健康・栄養問題を理解することが重要であることから、事例を示しながら理解が深まるように努めた。 ③授業は遠隔授業のため、事前に講義資料を配布し、予習・復習ができるようにつとめた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価は定期試験、レポート提出、小テストで行い、最終的な成績の平均値は77（±6.6）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは26名その中で90点以上が２名であった。 学生による授業評価においては、知識理解の観点、意欲関心の観点で余り差がないことが示された。学生が学ぼうとする姿勢によって理解度に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲を持たせ、課題を検討する力、課題解決のための的確な判断力を身に着けることができるよう授業内容を工夫していきたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野の知識を修得する位置にあり必修である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の達成度自己評価においても、98％以上の学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、達成できたと回答しており、内容的には妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.6と他の項目より低かった。事例をあげて説明を行ったが、理解できていない学生がいたこと、予習・復習の時間が少なかったことが反省点である。次年度に向けては、復習を事前に提示して自分の言葉で理解した上で授業に参加するよう促していきたい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成については概ね達成できた。予習・復習や授業の課題以外の学習に取組んだ学生が少ないことから、予習・復習等の提示を明確に行うことで改善を図りたい。また、必要に応じてレポートという形での提出やディスカッションをするなど、知識理解の達成に努めたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田　郁子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	49

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	×	×	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、臨地実習Ⅲを受講する学生の必須科目としての位置づけであり、多くの学生の受講動機が『必修科目である85.7%』『資格取得に必要である53.6%』との理由であるのは当然のことと思われる。 本科目は、①地域栄養活動実践の概要と行政組織、②地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法、③地域栄養活動の様々な場における管理栄養士の専門的な業務や活動の実際を理解することにより、行政で活躍する管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、行政組織や地域で活躍する管理栄養士の講義を取り入れ、行政管理栄養士の役割や公衆栄養活動の理解が得られやすくなるよう努めている。 また、グループワークを取り入れることにより、学びを深めるよう計画した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価はレポート提出と発表で行い、最終的な成績の平均値は81（±4.1）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは67.3%であった。 学生による授業評価においては、意欲関心の観点、態度の観点、技能表現の観点で大きな差がないことが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心が態度に現れ、そのことにより技術の修得に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲を持たせ、行動や技術の修得につながるよう授業内容を工夫していきたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野の知識を修得する位置にありことから、臨地実習Ⅲを受講する学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応える為、実際に地域で働いている管理栄養士等の外部講師の講義を多く取り入れ、行政管理栄養士の役割への理解が深まるよう工夫した。学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の到達度自己評価においても、すべての学生が「学びを深めたいと意欲を持つことができた」、また「専門分野で必要となる技術を身に着けることができた」と評価していることから、内容的には妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.5と他の項目より低かった。行政管理栄養士の業務を理解してもらうために毎回講義内容が異なったため、理解できていない学生がいたことが考えられる。また「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていたか」の項目において、「そうでない」と回答した学生もいたことから、各講義毎に振り返る時間が少なかったことが反省点である。次年度に向けては、質問の時間を設ける等工夫をしていきたい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成にはついては概ね達成できた。予習をしない学生が50%、復習をしない学生が40%、課題以外に学習に取り組まなかった学生が75%いることから、授業構成を工夫して、管理栄養士への道を達成するための意識改革を図りたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木　るみ子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	77

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	給食提供現場の経営管理分野に関しての科目である。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であることから、例年通り復習に重点を置かせている。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」と「給食施設のマネジメント」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。さらに、診療報酬や介護報酬の改定内容に関しても重点的に解説をし、医療と福祉の各領域の管理栄養士間の連携の重要度が増大している社会的背景への理解を促した。特に本年度は、全てオンライン講義であったことから、重点項目をさらに精査し、学生の理解の程度を確認しながら講義を進めることを意識した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本試験の成績は平均値±標準偏差が58.7±16.0（2020年度：59±10.6点）であり、昨年度と同程度であった。また、再試対象者は29/84名；34.5%（2020年度：26/59名；44%）で昨年度より減少した。試験の難易度は例年と同レベル（概ね70点以上の得点を理想レベルとした）であったことから、受講者の学修成果としては標準レベの到達度が得られたと考える。定期試験は昨年度同様に遠隔で実施され、従来取り入れていた論述式を取り入れることができなかった。暗記で対応可能な出題形式が中心ではあったが、計算問題や複数問にまたがって思考を要する問題形式を採用することで、『思考判断』力を確認することができたと考える。しかしながら、給食経営管理論分野の各項目の関連性が十分に理解できたかどうかは確証が持てない。試験はDP1（知識理解）の評価方法である。学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」に関して回答した学生全員が『そうだと思う』と評価していた（平均値・中央値4.0：昨年度中央値4.0）。また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」ことに関する評価は昨年同様に高かった(平均値4.1，中央値4.0：昨年度中央値4.0）。「学習量の評価」から、復習を2回以上実施した者は59.5%（約60%），自発学習に取り組んだものは62.2%（66.7%）であり、昨年度と同様の家庭学習への積極的な取り組みの姿勢が確認された。2020年度から意識して行っている「復習を重点的に指示」する指導方法が、授業時間外の学習を促す一助になっていると思われる。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	臨地実習Ⅰ（給食の運営）の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生が例年通り多数おり（平均値4.1，中央値4.0）、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考える。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価（平均値4.2，中央値4.0）が得られていると思われる。そのほかの自己評価項目も平均値および中央値ともに4.0以上の高評価が得られている。よって、内容的には妥当であると思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価が低かった（平均値3.4，中央値3.0）。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。しかしながら、本シート4（2）でも記述したが学習量は向上しており、授業の進めたおよび指導方法としては適正であると確信した。オンライン授業は教員の講義力の差が如実に表れることが指摘されているが、本科目に関しては授業の質に対しての一定の評価が得られたことが裏付けられたと考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容など、評価に値すると考える。昨年度「授業が早い」との意見があったため、授業の速さは（話す速さ）は余裕を持った解説を心掛けたため、本年度で同様の指摘はなかった。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学実習	2	後期	必修	いいえ	76

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①受講動機に対する回答で、ほぼすべての学生(46名中45名)が「必修科目である」ことを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは52.2％と多くはなく、また、「関心のある内容である」と答えたものは19.6％であった。栄養学の基礎知識・技術が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも活用できる重要な基礎的事項であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。 ②今年度はある程度新型コロナ感染が落ち着いたので、最初のオリエンテーション以外はすべて対面で実施した。ただ、可能な限り密にならないように間隔をとって着席し、換気にも十分留意して実施した。また、実習中はマスクを着用し、グループ作業も必要最小限にとどめるようにした。 ③それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1，2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今回の成績評価は、「知識・理解」および「思考・判断」を評価する期末試験（45％）および実習課題レポート（45％）、「関心・意欲」を評価したその他（10％）とした。 ②実習成績の平均点は、Aクラス90.1±4.0、Bクラス89.5±10.4であった。不合格者は、実習課題レポートおよび期末課題が未提出であった1名(再試験の申込なし；Bクラス)と出席日数が不足して受験資格なかった3名(Aクラス2名、Bクラス1名)で、それ以外は全員合格した。90点以上の好成績を修めたものは、(Aクラスで20名、Bクラスで24名）であった。 ③今回の実習は、一応、対面で実施したが、新型コロナ感染予防のため、一つの測定は各グループの一人が責任を持って実施するようにした。実習でグループ作業ができないのは実習本来の目的からは逸脱する面もあるが、学生の授業評価アンケートの”到達度自己評価”においては、すべての項目の得点が3.7～4.0で、すべて対面で実施した一昨年(3.6～3.7)より高い評価で、後半を遠隔で実施した昨年(3.6～4.0)とほぼ同じレベルであった。特に、項目(1)、(8)、(9)、(10)の得点は昨年より＋0.1から＋0.7高い値であった。以上より、おおむね教育目標は達成されたと考える。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 今年度の実習は、コロナ感染がある程度落ち着いたことから対面で実施したが、感染予防のためにグループ作業をできる限り制限した。実習の目的の一つであるグループ内での共同作業が十分できなかったのは、やむを得ないことであったにしても、実習としては不十分であった。ただ、グループの代表が測定した結果に対する考察、実習テーマに関する設問への回答などは個人でも十分に実施できたと思われる。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 各実習の課題レポート、期末課題については、全員が良好な成績を収めていることから、「栄養学の基礎的知識を栄養指導・栄養教育の現場に応用できる」というDP、行動目標の基本的な部分は、おおむね達成できていると考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	今年度の実習は、コロナ感染予防を十分に留意して対面で実施されたが、”授業の質評価”の得点(今年3.8～4.1)は、すべての項目で、対面で実施した一昨年(3.6～3.7)より高く、後半を遠隔で実施した昨年(3.8～4.2)とほぼ同じ評価であった。すべて対面で実施した一昨年と項目別に比較すると、項目(1)「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」および項目(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」の得点が共に4.１(一昨年比＋0.4）、項目(5)「口頭、文書での質問と回答」が4.0(一昨年比＋0.4)と比較的高い評価であった。項目(3)「説明の理解しやすさ」は3.8と必ずしも高い評価ではなかったが（栄養学科平均3.9、大学平均4.1)、一昨年比では＋0.4と改善していた。その点を反映したのか、自由記述に「説明が丁寧で分かりやすかった」という記述があった。実習レポート、期末課題の成績もかなり良好であったことより、授業の目標は概ね達成できたと考えている。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①専門教育科目にあたる本科目の位置づけから，栄養治療・栄養指導の基本となる栄養学の基礎的な知識の形成については概ね達成できたと考える。また、思考判断の面でもある程度は達成したと思われる。 ②後半を遠隔で実施した昨年の実習では、「遠隔」であるにも関わらず、例年に比べると「授業の質評価」の得点が高かった。これは、学生との「遠隔」での質疑応答が「対面」よりもより容易に（あるいは、より1対1の質疑として）行えることが理由の一つだと思われる。今年度の実習はすべて対面で実施したが、なるだけ双方向型の授業になるように留意したたことが、同じ対面の実習でも例年に比べると高い評価であった理由であると思われる。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村　貴子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としており、一つの課題をグループ学習を通して複数回に亘り協議することにより、多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標とする授業を展開した。 本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由であった。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていないことから、今後は準備性を把握し、授業計画に活かしたいと考える。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、81.0点(±6.0点)であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者（70点以上）は95.9%）であり、その中でも理想的レベル（80点以上）に達した者は61.2%であった。 成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に、今まで修得してきた専門基礎科目に課題が残る学生であった。 本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。半数以上が、図書館の図書や雑誌を利用していた。また、「わからないことを本で調べた」「疾患について調べた」といったコメントもあり、授業前後の学習を促すことができた。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養管理プロセス及び栄養ケア・マネジメントの一連を演習・実習することによって、臨床での栄養管理について総合的なマネジメントする能力を修得する科目であり、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ず身に付けておくべき技術修得を目指した。学生は一定の成績を収めているという結果から、内容的には妥当であったと考える。 さらに、学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は97％の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本科目は、複数回の授業を経て、一つの課題に対してグループ討議を重ねていく授業展開であった。加えて、課題に向かうことで、これまで学んだ専門基礎科目を振り返ることが求められた。そのため、学生からの授業課題以外の学習に取り組んでいない理由として、「課題で精一杯だった」との意見が寄せられた。これらの意見から、授業に真摯に取り組むことで専門基礎科目を含めた総合的な実習を行うことができたと評価できた。 一方、授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約15％の学生が回答していた。本科目は、筆記試験による評価がないことから、栄養教育の実習についての評価基準を見える化する必要性が考えられた。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、3年後期から始まる臨地実習Ⅱにつなぐため、臨床における傷病者を対象とした個人栄養教育、集団栄養教育の実習・演習を行った。実際に、身体計測や食事調査を行い、実践に近い進行を行ったことで、今まで学んできた専門基礎科目の復習に繋がっていた。できる限り、現場での実践を想定し授業進行を組み込んでいきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	西村　貴子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	46

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、疾患の成因・病態ならびに治療法を把握し、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法を理解することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である』『資格取得に必要である』であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、多くの学生が予習復習時間を確保していた。また、自発的学習に取り組んだ学生は34％で充分とは言えないが、「2年の復習」、「疾患について」、「気になることを調べた」という学生が認められた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は69.4(±12.4)点であり、昨年度69.3(±10.4)と同程度であった。また、本試験合格者は全体の83％であり、昨年度89％)より低かった。実際には、56％が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は15％であり、理想的レベルを達成できた学生は前年より増加した。成績の平均値は同程度、標準偏差が大きいこと、理想的レベルに達した学生が増加したことから、学生の修得状況には個人差が大きかったものと思われる。 本科目を受講するに当たり、約80％程度の学生が予習復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺えた。大多数の学生が専門的知識および技術の修得に対し、達成できたと回答していた。本科目は学外実習(臨地実習Ⅱ)と連動している内容であることから、口頭指示内容をメモするように伝えた。しかし、その指導方法に対し、指摘があった。このことについては、真摯に受け止め、学生に対する指導については、その必要性を適宜伝え、学生の質問を受ける体制を充分に取る必要があると考える。今後の再発防止に努める。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業倫理や行動規範』『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』においてもほとんどの学生が『達成できた』と回答していたことから、内容的妥当性については問題ないものと考える。後期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性に対する気づきにもなったものと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったものの、授業時間の超過がたびたびあった。複数名より、指摘があった。授業内容の見直しと学生への理解の呼びかけを行うことが必要である。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、26問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予習復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、半数以上の学生が標準的レベル以上を達成した。また、学生の達成度自己評価では『知識の確認・修正』や専門分野の『課題を検討する力』『的確に判断する力』『学びを深めたいという意欲』『職業倫理や行動規範』『職業選択』において、ほとんどの学生が『達成できた』との回答であり、講義内容等についての問題はないものと考える。しかし、自由記述において、授業時間の超過や学生への指導方法に対し、指摘があった。このことについては、真摯に受け止め、次年度の改善を行う。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田　郁子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	50

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、必修科目であり、臨地実習Ⅲを受講する学生の必須科目としての位置づけであり、多くの学生の受講動機が『必修科目である96.7%』『資格取得に必要である43.3%』との理由であるのは当然のことと思われる。 本科目は、①対象集団や地域の特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。②健康的な食環境を提案することができる。③適切なニーズアセスメントを選択・実施し、プリシードプロシードモデルに基づいた評価判定ができる。この技術を修得することにより、地域で行われている健康・栄養改善活動業務の中での管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、よりよい公衆栄養プログラムを作成するためグループで協議を行い完成していく課程を修得するため実習を中心として、学びを深めるよう計画した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価はレポート提出と発表で行い、最終的な成績の平均値は79（±6.9）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは42.9%であった。 学生による授業評価においては、意欲関心の観点では大きな差はないが、知識理解の観点、思考判断の観点で差があることが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心はあるが、知識理解や思考判断力の差が技術の修得に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、知識や理解力、思考判断力を身につけさせるよう授業内容を工夫していきたい。 学生による授業評価においては、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」が他よりも低いことから当初の目的が達成できなかったと考えられる。 次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲や関心を引き出し、知識理解、思考判断力が修得できるよう工夫していきたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野を修得するための実習に位置付けられており、必修である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の達成度自己評価においても、93.3%の学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、達成できたと回答しており、内容的には妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.2と他の項目より低かった。事例をあげて説明を行ったが、理解できていない学生がいたこと、予習・復習の時間が少なかったことが反省点である。次年度に向けては、質問の時間を設けたり、グループワークの進捗状況に沿った助言をするようにしていきたい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の意欲形成については概ね達成できた。グループワークで公衆栄養プログラムを作成することから、自分で調べることが必要であるが、図書館を利用していない、学術データベースを利用していない学生が60%以上いることから、先行事例を調べることをもっと取り入れ理解を深めるように工夫していきたい。またディスカッションの回数を増やし、知識理解の達成に努めたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木　るみ子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	はい	72

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	○	×	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3 年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が100%、「資格取得に必要」が53.7%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。 特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進行度および給食管理に関しての習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。2021年度は感染症対策を徹底した上で、従来の実習形態に限りなく近いスケジュールで実施し、給食施設の給食マネジメントと大量調理の特性および工程管理の指導を行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	どちらともいえない		やや達成された		どちらともいえない

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	総合成績の点数は平均値65.7±20.3（2020年度：73.4±21.3）であった、再試対象者は5/75名（6.6%；2/48名 4.2%）であった。記述試験については、例年と同レベルの内容であったが、近年減少傾向であった再試対象者の増加が認められ、また平均点も約10点低下した。当該学年は、1年次の配当科目がすべて遠隔授業であり、調理学実習についても例外ではない。そのため、調理に必要な技術や食品の取り扱い等の基礎知識が身についておらず、大量調理という特殊な調理実習への適応が上手くできていなかったように感じる。実際、指導は非常に難しかった。しかしながら、到達度自己評価は全ての項目において高い評価（中央値：4.0）が得られ、学習量の評価では、2回以上の予習をした者が75.9%（2020年年度62.2%）、復習をした者が74.1%（同62.2%）、授業以外の学習への取り組みが59.3%（同57.8%）であり、本実習内容および管理栄養士業務への意欲・関心の向上が認められたと判断する。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識については実習の中で網羅されており、DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考える。完全に従来通りとはいかないままでも、給食施設運営を想定した実習を可能な限り実施したことで、学生指導上の本科目の目的は達成できたと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価より、全ての項目で昨年度同様に高い評価〔平均値3.9～4.0，中央値4.0（2020年度：平均値3.7～4.1，中央値4.0）〕を得た。本実習は、給食施設における管理栄養士としてのマネジメント力を修得する科目である。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。2021年度は感染症状況やそれに対する大学の方針等の状況判断をしながら、可能な限り、従来に近い内容で実施した。「学生同士で考えて、検討し実施する」ことを重視するのと同時に、状況に応じて計画内容等の修正を行った。状況判断をしながらの実習であったため、急な変更指示等もあり、学生からは「連絡が遅い」との意見があった。また、「厳しい」との意見が散見されたが、そもそもが「給食施設の管理責任者である管理栄養士業務を学ぶ実習」であり、「楽しく調理をする実習」ではないことについての理解を求めたい。指導方法についても否定的な意見が得られているが、指導者側の意図が十分に伝わっていないことが考えられるため、今後はさらに細かな説明を平易は言葉で伝える努力が必要であると考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「新調理システム」を導入して2年目の実習であったが、本年度はさらに効果的な活用ができた。学内実習を通して最新技術の理解や習得へつなげることが可能となり、進歩が著しい給食システムへ対応する余裕が得られることが期待される。今後は、厚労省および経産省が提唱する「健康経営」の概念を取り入れた給食施設の役割についても言及していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理師論	1	前期	選択	いいえ	51

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①管理栄養士国家試験関連科目とは異なり、受講動機は、「関心のある内容である」において比較的高い数値を示した。 ②本科目の開講目的は、「学生の管理栄養士就職試験に役立つ調理師資格取得を支援する」こと、および、「高学年で学ぶ管理栄養士専門科目全般を包括する初歩的内容であり、今後の学習を円滑に進めるため基礎を養う」の２点である。 ③新年度は試しに調理師試験の過去問題集をテキストとし、２年目は受験参考書をテキストとしたが、３年目は新型コロナの感染防止のため遠隔授業となったためテキストを用いず参考書をパワーポイントに書き起こした資料を画面に映しての授業を実施した、４年目の今年も新型コロナの感染防止のため遠隔授業となったため、昨年度と同じ要領で授業を実施した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された			達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 登録された受講者数５１名（昨年は５８名、一昨年は１８名）に対して、４４名（昨年は４８名、一昨年は７名）という多くの学生が受講した。暑い時期の夏期講習、かつ、遠隔授業ということがあったにもかかわらず、ほとんど欠席する者もなく熱心で学習意欲が高い受講生であった。また、調理師資格取得にも高い意欲を示した。 ②評価結果 受験者４４名全員（昨年は４８名全員、一昨年は７名全員）が本試で合格した。成績は、平均点が９０.６点（昨年は８３.９点、その前年は９４.４点、その前年は８３.０点）、標準偏差は１１.０（昨年は９.１８）であった。成績の内訳は、秀３３名（昨年は１７名）、優４名（昨年は２４名）、良２名（昨年は３名）、可５名（昨年は４名）ということで、「秀」取得者が増加し、極めて優れた結果であった。昨年に引き続き、このように好ましい結果であったことは、この授業科目の実施方法が良い流れに乗っていることを示しており、喜ばしいことである。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門選択」であり，かつ，夏期集中で実施するため，もともと受講生の学習意欲が高く，質の高い成績を収めていることから，内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から観て「知識理解」「態度」「技能表現」について十分満足いける結果が得られた。成績の質が高いことから，内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	昨年から遠隔授業に対応するためにテキストの内容をパワーポイントに書き起こした教材を使用したため、要点をすべて網羅することができた。結果的に、成績は極めて良好であり、学生からの意見を見ても、受講生の理解度が上がったことが窺えた。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の開講目的である「調理師受験のための知識養成」、「調理師試験受験の動機づけ」、「今後の管理栄養士専門科目受講のための基礎的知識の形成」については、概ね達成できた。 ②テキストを用いずパワーポイントを使うことで、重要なポイントを絞り込んだ授業を提供できたと考える。次年度から、科目担当者が変わるが、リフレッシュすることで、より良い成果が達成されることを願ってやまない。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	長藤　信哉

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬事法規概論	1	前期	選択	いいえ	52

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	×	×	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目の開講した目的は、「学生の就職に役立つ医薬品登録販売者資格取得を支援する」ことであり、３年前より開講した科目である。 ②医薬品登録販売者資格試験を受験しない学生にも、一般教養としてのセルフメディケーションの知識を高めてもらうために、身近な話題を多数取り入れた。 ③今年度もオンライン授業での開催となったため、板書などの部分をスライドにするなど工夫をして実施した。 ④昨年度に示した改善案に基づき、講義が始まる前までの予習内容を具体的に提示し、早めに勉強に取り組めるような環境を整えた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 受講者数は２年前が３５名、昨年度は４５名であったのに対し、今年度は５２名の学生が受講し、受講者数の増加は、医薬品登録販売者資格に対する意識、および、学習意欲が高いことの表れである。高学年の履修者も多数見受けられ、この講座や医薬品登録販売者の認知度が上がった結果だと思われる。 ②評価結果 定期試験をオンラインで行い、レポート内容を加味して採点を行った。 成績は、平均点が８１点、秀２９名、優７名、良４名、可０名、不可１２名（不可は全員出席日数不足）であった。 ※夏季集中講義で、履修登録が４月に行われるため、直前で事情により講義に参加できない学生が出てしまった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門選択」となっており、夏期集中講義にて実施されるため、登録販売者資格を受験しようとする学習意欲が高い学生が受講し、良い成績を収めている。そのため、内容的には妥当であったと考える。 ②ＤＰ、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価より「知識理解」について十分満足できる結果が得られたが、前年度同様、オンライン授業で受講中の授業態度が確認しにくいのが反省点である。来年度は対面授業のため、受講中の授業態度は把握できるようになる予定である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の課題以外に学習に取り組んだ内容は、昨年度の反省を生かし、どういうことをすればいいかを伝えていたため、具体的な行動を取る学生が増えていた。しかし、取り組んでいない理由で、課題で精一杯と答えている学生も居たため、課題の量とのバランスを考える必要があると感じた。今年度も、遠隔授業であり、授業態度の確認が不十分だったのも反省点であるが、次年度は対面に戻る予定であるため、授業態度の確認については改善されると思われる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の開講目的である、医薬品登録販売者受験のための知識養成、受験の動機づけ、一般教養としてのセルフメディケーションの基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、前年度同様、オンライン授業であるため、学生側の反応の把握が難しく、オンライン講義の難しさを感じた。 ②担当教員への意見で「豆知識や語呂合わせが良かった」と書かれており、特に、管理栄養士国家試験でも使える語呂合わせは好評だったと思う。次年度も、さらに内容を発展させ、管理栄養士国家試験でも役立つ講義にしていきたいと思う。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3〜4	後期・前期	選択	いいえ	9

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	研究機関は3年後期から4年前期としている。4年生の卒業研究に参加し、手伝い、議論する。 研究室のテーマを理解した上で、研究テーマを話し合い、専門基礎科目及び専門科目で学んだ中で、関心を持った領域から担当教員と実践活動のテーマを設定する。研究手法を教員、上級生を通して学び、選択したテーマについての調査・研究を実施し、テーマに関する知識、理解を深める。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された〜達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	コロナ禍で、半分は遠隔となった。各先生の努力で、例年よりむしろ詳細に教授されていた。 判断は教員と学生と話し合って行い、学生自身でしなければならない事も回数を重ねるたびに増え、教授と自主的思考判断行動がバランスよくできていたと思われる。 授業評価の指標は、 ・実践活動のテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 ・実践活動のテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 ・実践活動のテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。 ということを指標としている。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	カリキュラムの集大成、四年間の総決算として、実践活動（卒業ゼミ）は演習中心となるが、内容としては発行されている論文と同様の研究手順や過程を行う。 時間の許す限り論文作成と、研究発表まで進めたいものである。しかし、学生の参加態度に大きく影響を受ける。 資格取得33.3%と単位取得のため16.7%で、関心があると答えた学生は50%と半数に上り、研究科目の受講者が増えたと考える。 達成度の自己評価は3.5～4.0と意欲的な学生で選択されたと判断する。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業は、対面で行われ、実験や測定が中心の本格的実践型ゼミで有意義であった。 学生が意欲的に行動していたので、更に高度な研究を行うように進めたい。 質の評価は3.5～4.0と行動的で意欲的といえるが、学習量は少ない。 情報の利用、図書館をもっと喚起したい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	対面時に全体力測定を学生の意欲的な行動によって完結したため、問題なく結果を取集でき、まとめる時間も十分に取ることができた。 時間に追われたが、学生のリーダーシップを生かすことによって、計画通りの遂行ができた。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	12

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①必須科目ではなく、受講生は「受講動機」にも見られるように、純粋に何某かの研究を経験したくて受講したものである。 ②研究を始めるにあたって個々人との面接を行い、希望を聞いた上で、実現可能な研究テーマを設定した。 ③これまでもよくあったことであるが、途中、受講辞退する者が多かった。その理由は次の通りであった。 ・コロナ禍の中にあって、登校機会が奪われて実験を実施することができなかった。 ・３年次から学外実習が始まるが、今回は特にコロナ禍によって再三実習日程が変わり、研究時間を確保することが難しかった。 ・就職と国家試験を最優先したため、研究活動に割く時間が無かった。 ・教務委員および教員の認識違いで４年生後期まで本科目が開講されているものと考えていたところ、実際には、４年前期までの開講であった。 ・コロナ禍に起因する体調不良のため研究に着手できなかった。 ④以上のような理由から、今年度は受講申込者１２名のうち１０名もの学生が受講を放棄する結果となった。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①受講生数は、途中で受講を放棄した１０名を除くと、２名が受講した。 ②２名は、「研究計画」をきちんと立て、計画的に遂行した。卒業論文も見事な出来栄えで仕上げ、大変、興味ある実験結果が得られた。 ③成績は最上評価の「秀」を２名ともに達成した。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	研究の立案、遂行、まとめの全過程を通じて、「知識理解」「思考判断」「意欲感心」「態度」「技能表現」のいずれにおいても高度なレベルに達した。以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	受講を途中で放棄する学生が増えていることの理由を前述したが、年々、研究にまったく未着手のままの状態で放棄する者が増えている。就職や国家試験が、過去と比べ難しくなったとは考えにくいので、近年の「面倒なことを避ける」という学生気質が反映されているように感じた。本科目については、履修期間、履修時期、方法について、学科内部で十分な協議をしていく必要性を感じた。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	研究を実施した受講生の達成度は、大変、高いレベルに達していた。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	13

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①実践活動(ゼミ）は、選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択することが多い。受講動機は「関心のある内容である：43%」「必修科目である：43%」であった。4年前から単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性があり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなったため、ゼミを履修前の説明時（面談時）に、より詳しい説明を行い、意志の確認をした、今後もそうしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。 今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。 ②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみprojectで、福祉や看護の学生たちと協力して、小児科病棟に入院している乳児期から学童期までの子ども達に安全で安心して遊べる玩具の作製をし、届けた。学生たちはこのほほえみprojectの活動を行っていくなかで、自然とチームで活動することの大切さを（3学科協働の精神）身につけることが出来ていた。また母性栄養に関するテーマを選択した学生には、助産別科の学生に対し、妊娠と栄養をテーマに、多くの文献を調べ、情報提供を行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①DP1(知識理解）、DP2（思考判断）、DP3（関心意欲）、DP4（態度）、DP5（技能表現）すべてにおいてゼミの活動や発表によって評価した。ゼミ活動が就職選択の参考になったと回答者全員が回答しており、母子や医療に関わる栄養管理業務を選択した学生にとっては、役に立ったことが考えられる。 ②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため後期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。課題学習や自己学習のために図書館の利用であるが、母性栄養の発表を行った学生は高い頻度で利用している。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、3年後期-4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、3年生後期のゼミのスタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用については、今後も学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。図書館ガイダンスの実施も検討している。2022年度は、ゼミ活動以外にも可能な限りゼミ生と接する機会を増やし、実践活動（ゼミ活動）、国家試験勉強、就職活動など様々な点で学生のサポートをしていきたいと考える。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の位置づけは3年後期から4年前期の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ（教員）を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものと考える。これからも学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ（授業）改善を行っていく。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木　るみ子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	7

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。活動は一部制限があったが、障害者支援施設の給食部門と連携し、一般成人向けの昼食用弁当の企画・生産・販売する取り組みを実施した。この取り組みは、給食施設管理栄養士および調理師との連携が必要であり、指導教員の担当科目の専門性にも合致した内容である。学生及び施設側との打ち合わせ、弁当献立計画、修正等のやり取りは全て遠隔で実施した。この取組から、、企画から商品化という過程を学ぶことにつながったと考える。また、小学生の親子向け食育料理教室（「だいすきにっぽん」の一環）は、初めてのWEB開催を行った。従来の対面式以上に事前の準備と学生間の打ち合わせが必要であったが、無事終了することができた。毎年のことながら、履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価から「知識の確認・修正」に関して、平均値4.0、中央値4.0の評価が得られた。また、「専門分野のさまざまな課題を検討する力〔平均値4.0、中央値4.0（2020年度4.6、5.0）〕」「コミュニケーション能力〔平均値4.3、中央値4.0（2019年度4.8、5.0）〕」が身に付いたと評価する者が多く，昨年同様に高い評価を得ることができた。また、「行動規範」等を学ぶことができたとし、「職業選択の参考になった」と評価された。実際に、例年のゼミ生は希望職種への就職を果たしている。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考える。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	4年間の学習内容を総合して取り組むのが自薦活動であると考えらる。また、本活動は大学生活で得た知識・技術を実践する活動内容であり、これを活用して学外の企業や施設との会議の際に提案を行わなくてはならない。これらの実践的な活動の成果が、到達度の自己評価の結果に表れていると考えられ、内容的に十分に妥当であると考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価から、特に「学生の参加する機会」「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。本ゼミは、学生の完全自治によって運営する方針をとっている。指導教員はアドバイスをするにとどめており、学生が主体的に考え、行動し、結果を得るという十分に経験することができたことが、今回の数値につながっているものと思われる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015・2016年度の総括として「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示し、2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設け、活動内容を十分理解したうえで参加できたと考える。 2018年度は大学自体への出席率が低い学生への対応の難しさを課題に挙げた。2019年度は特に問題なく活動を進めることができた。そして、2020年度であるが、大学全体の休講措置のため、活動自体が制限され、例年実施していた多くのゼミ活動を中止せざるを得なくなったが、管理栄養士の特性を生かすことのできる活動を計画から販売まで実践することができ、学生にとっては4年間の専門教育で培った学びが十分に生かす機会となった。2021年度は、一部の活動制限がある中で、状況に適宜対応し運営を行った。このため、スケジュール変更が頻繁に発生し、履修学生全員が同レベルで参加するという機会がなかなか得らえれなかった。活動方針がはっきりと決まらなかったことが本年度の反省点である。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田　志麻

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	11

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。 ②11名の希望者のテーマは、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。そのため、対象者にあった対応や支援の方法について学べる活動とした。 ③食育活動では、食育テーマの決定、プレゼン方法、実習の準備や流れ、全体の総括などを、栄養相談では、高齢者の対応、栄養指導法、機器測定方法など学べることを目的とした。 ④本人の意思により、それぞれのゼミ活動に参加していたため、学生のペースにあわせた活動とした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	コロナ禍により、外部での活動が難しかったため、学内でテーマに合わせた試作とそのデモンストレーションをグループごとに行い、実践した。試作に対するレシピづくりやデモの実施内容についてアンケートを行い、集計し事故評価まで行った。その結果、到達度の自己評価の平均は、4.0～4.3点、中央値が4.0点、授業の質の評価の平均は3.9～4.2点、中央値が4.0～5.0点とまずまずの結果であった。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるため，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 コロナ禍であり、外部の活動や調理実習などができず、実践的活動の場を持つことができなかった。 ③まとめ 以上からコロナ禍のゼミ活動内容の検討が必要である。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	コロナ禍により、外部での活動が難しく、活動内容を学内での試作とデモンストレーションに切り換えて行った。平均点は、3.9～4.4点、中央値は4.0～5.0点であり、授業の質の評価はおおむね良好であった。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。しかし、今期コロナ禍で外部活動や調理実習などの活動が全くできなかったため、今後このような状況下であった場合、学生ができること、社会人として管理栄養士として卒後働く上で、活用できる知識やスキルを身に着けることのできる活動内容を検討し、変更する必要がある。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	髙﨑　智子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	13

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	大腸がんと乳がんは、近年日本人で増加しており、欧米型食生活との関係が指摘されている。がんの中でも検診方法や治療法が確立されており、早期発見すべき代表的な疾患である。病院への就職に興味を持つ13名の学生が興味・関心を主な動機として本ゼミに参加した。学生を２つのグループに分け、グループごとに大腸がんまたは乳がんを選び、「がんの予防と食事との関連」をテーマに、文献検索等によって情報収集・考察し、協働して論文形式でレポートにまとめることを指導した。資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等については、遠隔あるいは対面にて指導を行った。当初は市民公開講座にて地域住民への情報発信や健康支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のために公開講座を中止したため、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめ、一般市民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットをグループごとに作成することとした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	がんは患者数が多いにもかかわらず正規の授業で学ぶ機会が少なかったため、新たな知識を習得したことに対する自己評価は高く、学生が主体的にゼミ活動を行ったことが伺えた。事象を理解する視点や考え方の獲得・課題検討力・判断力・専門分野で必要となる技術の獲得についての自己評価も高く、統計をはじめとした各種資料を読み解く中で達成感を得たものと思われる。また日々進歩する医学の世界において最新の知識を得ることの重要性を理解できたと考える。なおインターネットを利用して調べることは不可欠であるため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法や引用の方法、著作権についても教育・指導した。最終的に論文形式のレポートに加え、一般市民向けにわかりやすく説明したリーフレットをグループごとに作成しており、コミュニケーション力や表現力の基となるスキルも身に付けることができたと考える。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は選択科目である。管理栄養士として就業した際に、患者指導や市民教育の場で情報発信することを想定して学修内容を設定しており、学生もそのことを理解した上で参加した。協働してオリジナルの成果物を作成し、新たな知識を得たと自己評価していることから、内容的に妥当であったと考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識・技術を想定して学修内容を構成した。全員が、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「職業選択の参考になった」と肯定的に自己評価しており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	各グループごとに、論文形式でのレポート作成・一般向けリーフレット作成についての指導を行ったが、各自が主体性を持って意欲的に臨んでいた。グループごとに協働して作成したオリジナルのリーフレットは、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめて作成し、がんの予防に有益な食材を使ったレシピも掲載した。若者ならではの感性で、レイアウト、色彩、イラスト等にこだわっており、成果物は期待以上の出来映えであった。また本学科では、卒業ゼミ担当教官はゼミ学生のアドバイザーを兼ねているため、研究指導に加えて、就職活動におけるエントリーシート作成や面接対策等に関するサポート、および国家試験に対する支援を並行して行った。国家試験のための勉強時間を確保するために、長期休暇中も計画的に集中して研究を進め、早めにレポートやリーフレットの作成に取り組んでいた。学生によっては就職活動時にこれらの成果物をアピール材料としても提示することができており、4年間の学修の集大成となり得たと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	論文形式のレポートを作成する過程で出典や引用文献を明示する必要性について指導したことは、将来論文等を執筆する際の規範を学ぶ一助となったと考える。加えて一般市民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットを作成したことは、医学的知識のない方が病気を理解するために知りたいと思っていることは何かなど、患者や市民の立場になって物事を考える力を身につけ、管理栄養士として栄養指導等を行う上での具体的な知識や患者とのコミュニケーション能力を養うことにつながったと考える。13人の学生に対して指導を行ったため、学生のモチベーションや熱意には開きがあったものと推察され、個々の学生に細やかな指導ができなかったであろうことを危惧したが、学生たちがゼミ活動をきっかけに友人関係を深め、協働して助け合いながら課題に取り組み、全員が目標達成感を得たことは評価できる。市民公開講座にて地域住民への情報発信や健康支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のために公開講座を中止したため、次年度は一般市民等へ実際に啓発活動を行う機会を作ることを検討したい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田　郁子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3～4	後期・前期	選択	いいえ	7

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、選択科目であり学生が実践活動のテーマに興味があるゼミを選択し３年後期から４年前期に学ぶ位置づけであることにであることから、受講動機『関心のある内容である』60.0%は当然の結果であると考える。 ②本年度のゼミのテーマは、①配食サービスの実態把握と地域高齢者に適した食環境整備、②行政と連携したヘルシーメニューの推進の２つに分かれて、公衆栄養活動を実践する計画であった。しかし、コロナ禍によりほとんど実践活動ができす、当初の目的を達成することができなかった。 ③①配食サービスの実態把握と地域高齢者に適した食環境整備 ②特に「行政と連携したヘルシーメニューの推進」は緊急事態宣言発令により飲食店の営業時間が制限されたため実施不可能となり、急遽「特定健診会場での塩分チェックシート、尿中ナトカリ測定の説明」に変更したが、これも２名の学生が参加することができたのみであった。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価はレポート提出と実践活動で行ったがコロナ禍のために十分に実践活動ができなかった。 学生による授業評価においては、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が他よりも低いことから、専門職業人として必要な実践力（技術表現・態度）において当初の目的が達成できなかったと考えられる。 次年度に向けて、コロナ禍においても、学生が学ぼうとする意欲や関心を達成できるように、実践活動の内容を工夫していきたい。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は専門教育科目であるが「実践活動・卒業研究」とより専門的知識を修得する位置にある。選択科目であり、学生が興味や関心がある実践活動テーマを選ぶため、専門職業人である栄養士・管理栄養士の知識・技術修得を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識・技術の修得に応えるように工夫したが、コロナ禍のため実践活動に限界があった。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の達成度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」と回答しており、内容的には妥当であったと考える。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、すべての項目で平均値が3.4低かった。行政管理栄養士が地域で実践している業務を体験する実践活動を計画していたが、その機会が十分得られなかったことが反省点である。次年度に向けては、当初の計画が実施できなかった場合のゼミ活動について計画を立てるなどの工夫をしていきたい。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している実践活動科目である位置づけから、専門分野の知識形成については概ね達成できた。課題以外に学習に取り組まなかった学生が80%いることから、卒業研究程ではないが、実践活動をとおして得られた知識・技術をまとめることを行い、４年間大学で学んだことの達成感を持てるよう改善していきたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和　太

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	78

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①4年生になって，国家試験の受験を目標に、社会、環境と栄養、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学、解剖生理学、生化学、食品学、食品衛生学、基礎栄養学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。 ②初回授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。 ③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は55.9（±11）点であった。理想的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達したものは約50％であった。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は低下した。 ③学生による授業評価においては，「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。 以上から、教育目標は達成されていると考えられる。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①ＣＰ，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」である。管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②ＤＰ，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において，「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が4.0と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては，さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。 学生の意見としては、「国家試験対策をしていただき、ありがとうございました」という意見があり、学生が授業の内容を踏まえて、国家試験に向け、しっかり取り組んだことがうかがえる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門科目にあたる本科目の位置づけから，基礎的知識の形成については達成でき，思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。 授業過程を振り返ってみたとき，毎回授業の最初にテストを行ったことで，学生が検討を加える時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。 以上から，毎回の授業のねらいを具体的に示すこと，テストで考える時間をとり，復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。 配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ，来年度にむけて改善を行いたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	78

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『応用栄養学』『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、多くの学生の受講動機が『必修科目である81.5%』『資格取得に必要である55.6%』との理由であるのは当然のことと思われる。管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱは週2コマの講義であり、この講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、2021年度も、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を実施した(前期：6コマ/週、後期：8コマ/週および夏期補講)。さらには、昨年度の管理栄養士国家試験結果を受け、国家試験直前の学習対策に関しても、対面および遠隔で実施し、授業時間以外でも自主的に学習できるように、受験への手厚いサポートを行った。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1およびDP2は本試験の結果から評価した。本科目の本試験成績の平均値は61.3点であり、56%の学生のみ標準的レベル(60点以上)に達することができた。残りの44%は本試験不合格であった。実際には、『秀：1名』『優：2名』と理想的レベルに達している学生は3.8% しかおらず、『良：17名(22%)』『可：24名(31%)』であった。しかし、学生の到達度自己評価では、99%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答しており、学生による自己評価と試験結果に乖離が見られた。一方、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と多くの学生が回答していた。このことから、学生の自主的な学びの科目としては、本科目における教育目標は達成できたものと予想されるが、今回の第36回管理栄養士国家試験合格率は、84.1%と、昨年度の73.8%よりは上がったものの、全国の管理栄養士養成施設の中では低く、この合否結果を受け、1月に実施される本科目の本試験の時点で、「標準的レベル」にまで学生達を至らせることが、管理栄養士国家試験合格への必須事項となることが考えられる。本科目の本試験の時点で標準的レベルに至ることが出来なかった学生たちの、国家試験までのフォローについても、対面だけでなく遠隔による実施を含めさらに検討を重ねる必要があると考える。

５．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、99%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。達成度評価については、学生個々が国家試験合格を目標としているのであれば、履修者全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は56%と大変低い値であった。実際には、第36回管理栄養士国家試験において、84.1%の合格率であり、この教科の内容的妥当性についてはほぼ問題ないものと考えるが、講義形式や国家試験直前のフォローについては毎年度その学習環境に応じて検討する必要がある。

６．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結していおり、予習復習の時間は約25%がゼロと回答したにも関わらず、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)約78%』と回答していたことから、実際には、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。

７．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられてはいるが、2021年度も標準的レベルに達した学生が少なかった点に関しては、試験方法、予習・復習の実施等の見直し等行っていく必要はある。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しているので、講義内容等についての問題はないものと考える。今年度の国家試験結果を受け、遠隔ではなく対面による講義や模試の実施が可能だったことが、昨年度よりも合格率を上げることにつながった一因であることが考えられ、今後も提供できる学習環境の整備を含め(対面でも遠隔でも）、国家試験直前まで、学科として学生にフォローしていく必要があり、検討課題とする。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	12

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○全学科：平均点92.3点、秀48人（73.8%）、優12人（18.5%）、良4人（6.2%）可2人（3.1%）、不可0人（0.0%）。SD8.41。 ○栄養学科：平均点89.4点、秀6人（50.0%）、優4人（33.3%）、良2人（16.7%）可0人（0.0%）、不可0人（0.0%）。SD6.64。 ○栄養学科（昨年度）：平均点66.9点。秀1名（11.1%）、優1名（11.1%）、良1名（11.1%）可5名（56.5%）、不可1名（11.1%）、SD16.1。 ○昨年度と比較し大幅に得点が上昇した。ただし他学科との比較ではやや秀と優・良が半々となっている。

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、ＤＰ、ＣＰ、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	○昨年度と同程度の学習内容・程度であり、試験に関しても同様であった。 ○本年度は次の2点に取り組んだ。（１）レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。（２）オンラインで繰り返し学習できる復習テストを充実させた。 ○また、オンラインでの試験であったため、試行を複数回行った。 ○到達度が非常に高かったのは、試験形式に慣れると同時に、それが復習の機会となったと考えられる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は非常に満足できる結果であった。 ○他学科と同等の結果を目指し、全ての受講者の動機付けを高める工夫をしたい。 ○次年度は対面授業の予定であるため、本年度とは異なる条件で授業を行うことになる。ICTの利点を生かした学習を促すとともに、教材や授業実践の工夫を行いたい。

リフレクションカード　2021年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷　恵美子

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	7

2．観点・ＤＰ上の位置

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	○	○	○

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業に関しては、指導者からの一方的な授業ではなくて、「学生の主体的な学び」に配慮した。そのため、１分間スピーチの時間を殆ど毎回設定して、発達段階に応じた話し方を工夫させた。また、授業構想に関するプレゼンテーションや模擬授業の場面では、繰り返し体験させて、理論だけではなく体感的に習得させることを目指した。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目の学生の自己評価が4.2点と高いのは、こうした授業展開の成果であろうと考える。 学生の授業内容への関心を高めるためには、実際の学校現場が分かる資料や教育の最新の方法性が分かる資料を、適時、提示するように努めた。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	スピーチや発言、プレゼンテーションや模擬授業、ペーパーテスト、ノート整理などの視点から、評定を実施した。独自に設けた5段階評定によると、平均3.9点であった。そして、最低点の学生は、3.5点、最高点の学生は4.9点であった。 一方、学生のアンケート調査では、到達度自己評価が、全ての項目で3.6点以上でなった。特に、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は、4.2点という高い評価であった。 これらの結果から、目標は達成できたと考える。 ☒

5．ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

ＤＰ，ＣＰ，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①DPからみての内容的妥当性→学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考える。 ②CP、カリキュラム上の位置づけからみての内容的な妥当性→本科目は、栄養教諭の実務的な仕事を深める科目である。学生は、良い成績であり、内容的に妥当であると考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生からの授業の質評価として、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文章など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目が、比較的に高い評価であった。次年度も、「学生が主人公になる授業」を目指すことが望まれる。 学習量に関しては、予習や復習などの自主的な発展学習を実践している学生が少ない。授業中だけの学習になりがちなので、次年度からは、この点に向けての声掛けに配慮することが望まれる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	栄養教諭の実務を具体的に把握していく科目として、基礎的な知識理解や思考判断、関心意欲、態度は達成できたと考える。また、授業展開も、概ね適切であったと考える。 図書館を利用する学生が幾分少ないので、次年度は、情報を収集する場としての図書館利用を積極的に勧めることが重要であると考える。